

郷土教育推進研究報告書

平成27年度
「郷土日野」指導事例
第11集

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会

目 次

第11集の発行にあたって	日野市立教育センター 所長 松澤 茂久	1
--------------	---------------------	---

I 研究の概要

1. 研究主題	2
2. 研究主題設定の理由	2
3. 研究の目的	2
4. 重点課題	3
5. 研究構想図	4
6. 研究の進め方	5
(1) 研究組織	
(2) 研究経過	5

II 研究の内容

1. 郷土教材を活用した実践事例	
(1) ぼくたち、わたしたちのまち～平山～を身近に感じよう！（幼稚園 年長）	6
(2) 自分の住んでいる地域にまつわる昔話に関心をもつ（幼稚園 年長）	12
(3) わくわく町たんけん（第2学年 生活科）	18
(4) レッツゴー！あさひがおか たんけんたい！（第2学年 生活科）	24
(5) 「広げよう！ぼくたちわたしたちの世界」（第3学年 総合）	30
(6) 水の郷 日野 ～黒川清流公園を中心に～（第5学年 総合）	36
(7) 自然災害とともに生きる（第5学年 社会）	42
2. 新たに収集・開発した郷土資料・教材	
(1) 万願寺一里塚と甲州街道（第5・6学年 総合）	47
3. 関係機関との連携・協力の広がり・深まり	
(1) 「ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語」の学校教育における活用について	50
(2) 日野市立図書館開設50周年を迎えて、有山 ^{たかし} とその時代を振り返る	57
4. 郷土教育推進のための普及・啓発	
(1) 地域を知る指導者の育成～四谷・東光寺地区の教材化～	59
(2) 校長の役割	65
①校長講話「仲田小周辺の歴史探訪」	65
②校長講話「第18回新選組まつり」	66

III 研究のまとめ ～成果と課題～

1. 成果	67
2. 課題	68
◎ 郷土教育推進研究協力者・委員会委員名簿	69

第11集の発行にあたって

日野市立教育センター

所長 松澤茂久

昨年度の郷土教育推進研究委員会の夏季フィールドワークは豊田地区が対象でしたが、この時訪れた山口家で明治20年頃に製造販売していたビールが「多摩地域最古のビール TOYODA BEER」として今年復刻販売されました。日野市内のみならず、東京都全体でも話題になり、舛添知事からも褒めていただいたようですが、この復刻のきっかけとなったのは、平成25年度の発掘や蔵の調査で、貯蔵所の跡や昔使っていたラベル、醸造所の写真などを発見したことにあります。

郷土教育というものは、このように日々の動きの中から“いにしえ”をまた新たに発見する、古くて新しい分野です。昨年度日野市は第2次学校教育基本構想を策定しましたが、その中でも、「地域の自然や歴史を教材とした郷土教育を推進し、体験を通して、子供たちの興味や創造性、感性を豊かに育みます」と、その取り組みの方向性が示されています。

さて、「郷土日野」指導事例第11集が発行の運びとなりました。教育センターの郷土教育推進研究委員会（仲田小学校校長 池田泰章委員長）が、平成27年度の研究成果を取りまとめ編集したものです。この研究は、日野の歴史、自然、文化、産業、人物などを教材化することにより、ふるさと日野に誇りと愛着をもった子供を育てようとするもので、10年以上続き、日野教育の大きな特色となっています。27年度の研究も、幼稚園、小・中学校、図書館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、地域の方々などの参加と協力を得て、日野の地域の力を結集して行いました。

今年度は、四谷・東光寺地区を中心に研究が行われましたが、古代から現代に至る日野の歴史の中で、日奉氏発祥の地といわれる四谷・東光寺地区の果たしてきた役割の大きさを改めて認識しました。再開発など時代の流れで地域は変貌していきませんが、日野市は郷土教育教材の宝庫です。様々な機会を生かして、子供から大人まで市民の郷土への関心が深まってくれれば幸いです。

今年度、大変忙しい中を、郷土教育推進研究委員会に参加して授業研究にご努力いただいた現場の先生方はじめ各委員の皆様、そして研究推進にあたってご協力をいただいた各方面の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

I 研究の概要

1 研究主題

郷土意識を育む指導の在り方 ～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～

2 研究主題設定の理由

本研究は、日野市の小・中学校、博物館、図書館、教育委員会、教育センターが連携して推進する11年目の継続研究である。教育基本法、学校教育法、学習指導要領が改正され、教育目標に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」の文言が加えられた。本市の平成26年4月の第2次学校教育基本構想では、「地域と共につくる基本と先進の教育」を掲げ、教育のまち日野を目指して、「21世紀を切りひらく力」「次代をつくる特色ある学校づくり」「つながりによる教育」の3つの基本方針に基づき12項目と36の取り組みを設定し取り組んでいる。

さらに、基本方針3では『人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」を推進』するため、グローバルな視野をもったつながりによる教育と自然や歴史、文化、芸術、スポーツ、ものづくりに触れる豊かな体験を通して郷土教育を推進することに触れている。

この第2次学校教育基本構想においても「郷土に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」の育成が日野市の教育課題であり、郷土教育推進研究委員会では郷土教材の発掘、教材化に努め、指導計画を作成し、全市の幼稚園、小・中学校に普及啓発するため、「郷土日野」指導事例集を作成し、市内全幼稚園、小・中学校、市立博物館、図書館等、関係機関へ配布している。

この趣旨を生かすため、今年度の研究主題を「郷土意識を育む指導の在り方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～」と設定し、重点課題3点に絞って推進研究と授業実践に当たることにした。

3 研究の目的

「ふるさと日野に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」を育成するために、学校における郷土教育の在り方を研究する。この研究に基づき、各学校は郷土を活用した様々な教育活動を実践し、次の児童・生徒を育成することが本研究の重要な目的である。

- 郷土の歴史、自然、文化、産業、人を理解し、先人への感謝の心をもった ひのっ子
- 郷土の特色やよさに気付き、継承・発展させたいと願い、行動する ひのっ子
- 郷土の一員としての自覚と誇りをもち、仲間や郷土の人々と協働できる ひのっ子
- 郷土の未来の姿を思い描き、よりよい郷土の実現について思考できる ひのっ子

4 重点課題

今年度の重点課題を郷土教育の普及・啓発とし、具体的な課題3点を設定した。また、本市の重点課題を受け、これまでに引き続き幼稚園での郷土教育の推進と幼稚園と小学校の連携に取り組む。

- ① 郷土教育を推進する指導者（教員）の育成
- ② 幼稚園・図書館・博物館等、関係機関と連携した授業づくり
- ③ 郷土教材の開発と郷土教材・実践事例の電子データ化

（1）郷土教育を推進する指導者の育成

- ① 夏期郷土教育研修会（市教委共催）を実施し各小中学校の郷土教育推進リーダーを育成する。また、年度末に1年間の研究・実践の成果を発表する。夏期研修会は以下の内容で実施した。
 - ・午前 四谷・東光寺地区フィールドワーク
 - ・午後 東光寺小学校で実践事例の発表・講義・演習
- ② 郷土教育推進研究委員が各学校・地域での郷土教育のリーダーとなる。
 - ・毎月の委員会で実践報告・協議を重ね、研究を深める。
 - ・学識経験者、博物館学芸員、図書館司書から情報・資料の提供と指導・助言を受け、郷土教育の教材開発や実践に生かす。各委員が授業力の向上に努める。
- ③ 幼稚園と小学校の連携を深め、幼稚園教諭の郷土教育推進リーダーを育成する。

（2）幼稚園・博物館・図書館の連携

博物館・図書館が学校と関わる機能・役割として次の3点が考えられる。

- ① 郷土に関する資料や情報が蓄積されている。
- ② 蓄積された資料や情報をもとに小・中学校の授業を支援する。協働授業が実施できる。
- ③ 本市の博物館・図書館は、学校・市民に開かれた機関で、専門的見地から指導・助言・協働ができる。児童・生徒が興味・関心を高め、意欲的に学ぶことができる。

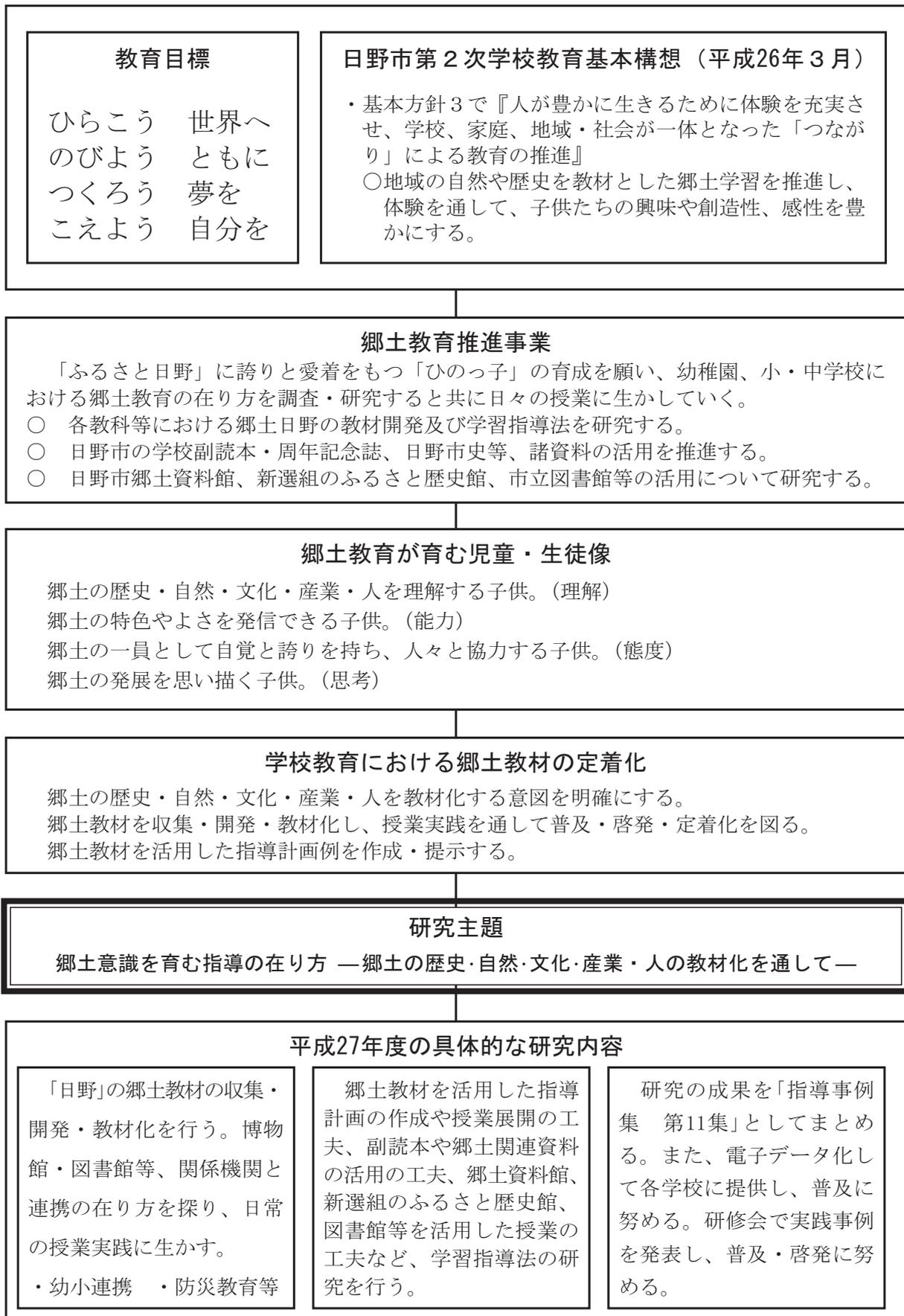
博物館・図書館と連携・協力することにより、効率的でより専門性を発揮した、児童・生徒をひきつける授業が実施できる。今後ますます博物館・図書館等関係機関と、よりよい連携協力関係を築き協働することが大切となってくる。

一昨年より幼稚園でも郷土教育に取り組むことになった。今年度も幼・小連携しながら、どのような実践ができるか、実践を通し検証した。

（3）郷土教材の電子データ化 教育センターホームページの充実・整備（PDF化）

- ① 郷土日野指導事例第1～第11集全ページが閲覧できる。（図版がカラーで見ることができる。）
- ② 郷土日野画像図版資料集第6集分が完成。写真や図表がすぐ授業に使える。
- ③ 年間3回の発行の「教育センターだより」に、本委員会で発掘・教材化した事例や授業で実践を掲載する。

5 研究構想図



6 研究の進め方

(1) 研究の組織

幼稚園・小学校教員、郷土資料館学芸員、中央図書館司書、新選組のふるさと歴史館学芸員、学識経験者を各委員とし、教育委員会指導主事、教育センターを事務局として、18名からなる委員会組織を構成した。ほぼ月1回の郷土教育推進研究委員会では、教育センターを会場に開発教材・実践事例の提案・協議、研究発表会の検討・準備、情報交換・連絡調整、郷土資料館特別展の見学等を行った。

(2) 研究の経過

日時・場所	委員会活動の名称	研究活動の内容
4月27日(月) 仲田小学校	役員会①	・委員会の構成・組織・内容・年間計画 日程等の打ち合わせ
6月5日(金) 教育センター	郷土教育推進研究委員会①	・委員会の構成・組織づくり ・本年度の研究内容の検討 ・研究活動日程の検討
7月3日(金) 教育センター	郷土教育推進研究委員会②	・郷土教材収集・開発の視点検討(学年、地域) ・フィールドワークのねらい、地域の検討
7月21日(火) 四谷・東光寺地区	フィールドワーク実地踏査	・フィールドワークコースの確定 ・内容の決定
7月31日(金) 四谷・東光寺地区	郷土教育推進研究委員会③ 「一日研修会」 午前フィールドワーク 午後講義・演習	・フィールドワーク ・室内研修(事例発表、講義、演習)
8月25日(火) 教育センター	郷土教育推進研究委員会④	・フィールドワーク反省、まとめ
10月29日(木) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑤	・郷土教材を活用した学習指導の検討・協議 ・研究発表の内容、発表者の検討 ・実践事例集11集プロット検討案検討
11月10日(火) 仲田小学校	役員会②	・研究発表会までの日程、内容、方法の検討協議
1月6日(水) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑥	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・実践事例集11集プロット検討案検討
1月19日(火) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑦	・郷土教育を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会の発表原稿検討
2月22日(月) 教育センター	教育センター研究発表会 郷土教育推進研究委員会⑧	・事前リハーサル、研究発表 ・研究発表会の反省、実践事例第11集作成手順
3月10日(木)		・「郷土日野」指導実践第11集 業者原稿入稿
3月31日(木)		・「郷土日野」指導実践第11集 業者納品
4月中		・関係機関へ発送 ・電子データ化(HP公開)

(中島 和夫、廣木 智之)

(3) 活動内容

① 平山季重祭りに参加しよう！ 10月11日 平山小学校にて *実際の幼児の反応

	幼児の具体的な活動と反応	教師の援助と指導上の留意点
導入 10月上旬	<p>◆平山季重という武士がいたことを知り、興味をもつ。 「名前聞いたことある。」 「知らないよ。」</p>  <p>◆平山の町にゆかりのある“平山季重”の祭りがあることが分かり参加することが分かる。 「去年みんなで年長さんの竹太鼓を見に行ってきたよね！」</p> <p>◆自分達が7月に行った“竹太鼓”が地域の人の中で披露できることを、楽しみにする気持ちをもつ。 「やりたい！」「楽しみだね！」</p>	<p>○“平山季重祭り”のチラシに掲載されている武士の絵を見せる。昔“平山季重”という武士がいて、平山の町に住み、活躍したと言われていることを伝える。</p> <p>○地域の人が参加する“平山季重祭り”が隣接する平山小学校であること、7月の夕涼み会で行った“竹太鼓”を演じることを伝える。</p> <p>○10月11日（日）に参加することを伝え、保護者や地域の人達などが、竹太鼓を楽しみにしていることを伝え、期待感をもてるようにしていく。</p> <p>○お侍の格好をした人たちにも会えることを伝え、興味付けをしておく。</p>
展開 10月11日	<p>★平山季重祭りに参加する</p> <p>◆和太鼓「菅原太鼓」の生演奏見学 ～ヒノソング演奏に携わった太鼓奏者～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本物の和太鼓の音に 「胸にドンドンって響いてる！」 「大きな音だね！」 「ヒノソングの太鼓の音の人なの？」 ・生演奏に合わせて、ヒノソングの踊りを大勢の幼児が自然と踊りはじめた。 「日野で育ったこの力～！日野で育ったこの体！日野で育ったこの心！」の歌詞を口ずさんで踊っている子どもたちの姿が見られた。 <p>◆平山季重の格好をした人とふれあう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎧姿の人を見たり、鎧に触れたりして興味をもつ。 「平山季重さん？」 「昔の人なんだね。」 「おさむらいさんだ！」 	<p>○子ども達が普段踊っていて親しみのある“ヒノソング”の和太鼓生演奏をクラス全員で聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太鼓奏者は“ヒノソング”の演奏をしている菅原さんであることを紹介する。 ・生の演奏に合わせて踊り始めた子ども達の姿を認め、教師も一緒に踊って楽しさを共感する。  <p>○祭りの名前になっている武士“平山季重”の格好をした方たちとのふれあいをもつことで、武士であること、昔の人であることの印象が残るようにする。 (産業振興課の方に依頼)</p>

<p>展 開 10 月 11 日</p>	<p>◆竹太鼓「火の国太鼓」を演奏する。 ・大勢の保護者の前で、“竹太鼓”の演奏を行う。 ・お客さんから沢山の拍手をもらう。</p> <p>◆武者の格好をした“平山季重”とのふれあい、写真撮影。</p>	
<p>ま と め 終 了 後</p>	<p>◆保護者、年少たいよう組から「上手だったよ!」「かっこよかった。」という声と拍手をもらい笑顔で喜ぶ姿が見られた。 「拍手いっぱいもらって嬉しかった!」 「竹太鼓楽しかった!」 「お祭り楽しかった!」</p>	<p>○祭りに参加していた保護者、地域の方達に、子ども達の演奏を喜んでもらったことを伝え、十分認める。 ○小学校に進級した来年もまた祭りがあることを伝え、楽しみにする気持ちをもたせてまとめる。</p>



菅原太鼓「ヒノソング」
ぼくたち、わたしたちが大好きな踊り“ヒノソング”の生演奏。
和太鼓の音が胸にドンドンって響いたよ。演奏に合わせて一緒に踊って楽しかった!!

竹太鼓演目 「火の国太鼓」
地域の方の前でドキドキしたけど、クラスみんなと気持ちを合わせていい音が鳴らせたよ!
いっぱい拍手をもらって嬉しかった!



② 自分達の周りに“ひらやま”とつく場所、建物が沢山あることを知ろう！

	予想される幼児の具体的な活動と反応	教師の援助と指導上の留意点
<p>導入 一日目</p>	<p>◆名前当てクイズと聞いて、興味をもって見たり答えたりしようとする。</p>  <p>「あ！平山児童館だ。」 「知ってる！幼稚園に入る前に行ってた！」 「Aちゃんと同じクラスだったんだよ！」 「遊ぶ場所があって楽しい。」 知っていることを一斉に伝えようとする。</p> <p>「平山小学校！」 「1年生と遊んだよ。」 「お店屋さんごっこに行って遊んだよね。」 「お姉ちゃんも通ってるよ。」</p> <p>「あれ？全部<u>ひ</u><u>ら</u><u>や</u><u>ま</u>があるよ。」 「ほんとだ！」</p>  <p>「ひらったいやま！」 「場所だと思う！」 「町の名前だよ。」 「うち平山4丁目だよ！」</p>	<p>○幼稚園の周りにある場所の名前当てクイズを導入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平山の名のつく“施設”を三つ写真で紹介する。(園児が身近に感じている場所) <p>① 親子で訪れ親しみのある「平山児童館」の写真を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行ったことがない幼児に配慮する。 ・子どもが答えたら<u>ひらやま</u>の文字を表示に書き込む。 <p>② 次に、幼保小連携で4回交流した「平山小学校」の写真を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが答えたら<u>ひらやま</u>の文字を表示に書き込む。 <p>③ 近隣「平山中学校」の写真を見せる。</p> <p>子どもから「<u>ひらやま</u>」という3つの場所共通のキーワードが出た後で、</p> <p>◎『「<u>ひらやま</u>」ってなんだろう』と投げかける。</p> <p>◎子どもの声「場所」「町」を拾う。 <u>周り</u>にある「<u>ひらやま</u>」という場所を探してみよう！と伝え1日目を終える。</p>
<p>展開 二日目</p>	<p>◆考えたことを教師に伝えようとする。友達の話に興味をもって聞く。</p> <p>「先生見つけたよ。平山図書館がある。」 「あ！絵本がいっぱいあるところだ！」 「平山城址公園！園外保育で行ったよ！」</p> <p>「ひらやまさん？」 「平山季重さんだ！」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想される場所の、写真や絵など視覚教材、ヒントを準備しておく。 <p>◎「<u>ひらやま</u>」の名前がつく場所を見つけた人いるかな？</p> <p>いくつか声が挙がったら、</p> <p>◎「<u>ひらやま</u>」の名前がついている人もいることを投げかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平山季重の「平山」の名前にちなんだ由来があることを伝え終える。

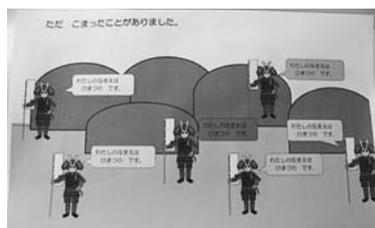
<p>展 開 三 日 目</p>	<p>◆紙芝居に興味をもって見る。</p>  <p>「平山って昔からあったんだね。」 「だから平山季重って名前になったんだね。」</p>	<p>○「平山季重」の名前にちなんだ由来の話の手作り紙芝居を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが分かりやすい内容にする。 ・子どもが参加できる場面を作る。
<p>ま と め</p>	<p>「ぼくは南平に住んでるよ。」 「私は東豊田！一番橋毎日通るけど、なんで一番っていうのかなあ。」</p>	<p>○子ども達が住んでいる「平山」という町がずっと昔からあり続けていること、これからも平山の町に興味をもって大きくなってほしいこと、町を大好きでいてほしいことを伝える。</p> <p>○他の町があることも伝え、子ども達の声を受け止める。</p>

★活動後の子どもの姿

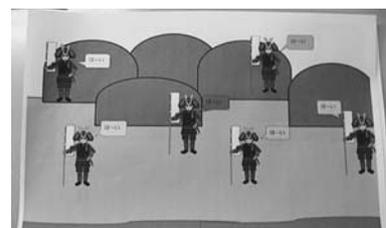
「平山陸橋っていう橋があったよ。」「平山城址公園の駅もあった!」「西平山も平山?」等、興味をもった幼児は、気づいたことを教師や友達に話す姿が見られたので、集まりの前などの空き時間を使い、子ども達と町にちなんだ話をすると、喜んで知っていることを話す姿も出てきた。



昔々「日野」という町に沢山のお侍さんがいました。町の人が元気に暮らせるように働いていたようです。



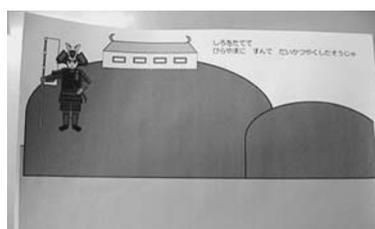
ただ、困ったこともありまして。お侍さんの名前がみな「ひまつり（日奉）さん」だったのです。



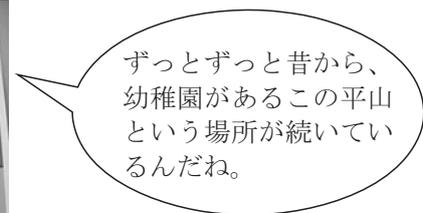
園児「ひまつりさ〜ん」侍「は〜い」「は〜い」あれれ、お侍さんみんなが返事をするではありませんか。



お侍さんの一人が平山に来て「山や川もあるし、この場所が気に入った!」と住むようになり、平山のひまつりさんと呼ばれました。



こうして平山の日奉さんは、このあたりの山にお城を建てて大活躍したそうです。それから平山の町は今まで栄えてきました。



【手作り紙芝居】

3. 成果と課題

(1) 成果

- 自分達が住んでいる町や通っている幼稚園の周りがある場などに子ども達が目を向けたり、興味をもてるようになったりすることが、郷土教育のはじめの一步と考えて活動を計画し実践した。導入をクイズ形式にする、紙芝居や写真等の視覚教材を使う、テーマを絞って一つの活動を具体的かつ簡潔にして次への活動につなげていく等の工夫をした。予想していた以上に、多くの子ども達が「平山」という町を自分なりにイメージして身近に感じたり、興味が続く等の姿が見られたりした。
- 平山季重祭りでは、地域の行事に参加することで、自分達の周りには沢山の地域の方がいることを知ったり、竹太鼓の演目を温かい目で見てもらえて嬉しいという気持ちを実感したりすることができた。ここでの実体験が、「地域の中にいる自分」を意識するきっかけになっていくと考える。
- 日野にゆかりのある“平山季重”公。これから先、耳にすることも多いと思われる。人となりについては小学校以降に学ぶ機会があると思うので、今回は、平山の町にゆかりのある武将が存在したことを知るという視点で提示した。クラスの多くの子が、「名前知ってるよ！」とつぶやく姿が出てきたので興味付けはできたと思う。
- “見る”“聞く”“考える”等の活動と直接体験できる活動、両方経験できる方が、子どもにとっては、より活動内容が身近に感じられ、興味が深まると考えた。

(2) 課題

- 今回の実践を通して、自分達の周りの地域に子ども達が興味をもてることが分かったので、今後、継続的に話題にしたり、取り上げたりしながら実践する。
- 幼稚園が所在する「平山」の町にある施設や場所などから導入して展開したが、より子どもの興味を引き出していくために、平山にゆかりのある昔話や逸話などに視点を当てて展開する方法も取り入れていく。
- 子ども達なりに、地域へ目を向けたり、住む町への親しみがもてるようにしたりするためには、幼稚園と家庭の連携を図ることが必要だと思われるので、その方法を探っていく。

※計画立案、実践に際し、郷土教育推進研究委員会の諸先生方、産業振興課の方々に、助言やご協力をいただきました。ありがとうございました。

(平石香奈子)

(2) 自分の住んでいる地域にまつわる昔話に関心をもつ

～四谷のうなぎの話をおうちの人に語り継ごう～

(幼稚園 年長児)

1. 教材化の意図

第三幼稚園周辺には、日野駅や甲州街道があり、古くから日野の中心として栄えた地域である。通園してくる子供達は核家族が大半であり、この地域にまつわる伝統行事を知らない子供も多い。そこで、地域にまつわる昔話を聞き、実際の場所を訪れて昔話をより身近に感じさせたいと考えた。さらに聞いた話を身近な人に伝える楽しさを味わわせていきたいと考え、教材化することにした。

クラスの実態として、絵本など視覚的要素のある読み聞かせでは興味をもって楽しんでいるが、言葉を聞き取る力や話す力には個人差があるので、地域の方から直接素話を聞くことで内容への興味や理解がどのような状況になるのか把握し、イメージを膨らませる時間を充分にとりながら大型紙芝居という表現方法で進めていくこととした。

2. 指導計画

(1) 幼稚園教育要領との関連

五領域から今回は、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、聞き取った内容を自分なりの言葉で表現していくという点で「言葉」の領域からと、素話からのイメージを膨らませ、考えたことを絵に表していくという点で「表現」の領域から活動を組み立てていくこととした。

(2) 活動のねらい

- 自分達の身近に、昔から語り継がれてきた昔話があることを知る。
- 物語のもとになった実際の場所を訪ねて、イメージを膨らませ、絵で表現する。
- 表現した絵をもとに、言葉を考えて紙芝居にし、身近な人に伝える。

(3) 活動内容

- ① 地域に伝わる昔話「四谷のうなぎ」を聞く。
- ② 物語にちなんだ実際の場所を歩く。
- ③ 自分達が聞いた話の紙芝居を友達と作って発表する。

活動内容① 「地域に伝わる昔話を聞く～四谷のうなぎ～」

ねらい：語りつがれてきた四谷のウナギの話を聞き、日野に伝わる昔話に関心をもつ。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の配慮点等	幼児の反応
導入	<ul style="list-style-type: none"> 日野市に語りつがれている昔話があることを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までクラスで読んだ昔話のように、日野にも語り継がれてきた昔話が複数あることを知らせ、興味をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人から直接、話を伺えることを楽しみにしていた。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 日野宮神社氏子会総代の小峰さんから四谷地区に言い伝えられている「ウナギの話」を伺う。 日野宮神社にまつられている仏像のパネルを見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師も小峰さんから直接聞いたことを知らせ、小峰さんに親しみをもたせる。 複数ある昔話の中から、幼稚園の近くに伝わる「四谷のうなぎ」の話をしていたくことを知らせる。 間近でパネルを見ることにより、物語に登場したウナギが仏像の一部になっていることに注目させていく。 	 <p>衣の袖がウナギになっているんだよ</p>   <p>本当にウナギになっているのかな。</p> <p>金メダルみたいに光ってるね。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 話を伺い、疑問に思ったことを質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話により興味をもてるように、また話の内容の理解が深まるように質問の視点を投げかけ、子供からの質問が出やすくなるように援助する。 子供の質問が物語に沿ったものとなるように言葉の足りない部分を補っていく。 答えていただいたものの内容がより伝わりやすいよう物語と結び付けながら子供に伝える。 	 <p>おじさんだけでなく、おじさんの家族も、うなぎは食べないんだよ。</p> <p>おじさんもうなぎを食べないんですか？</p>

活動内容② 「物語にちなんだ実際の場所を歩く」

ねらい：地域に伝わる昔話にゆかりのある場所を訪ね、昔話に関心をもつ。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の配慮点等	幼児の反応
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・回るコースについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先日、小峰さんから聞いたウナギの話の他にも、日野には語り継がれている話があることを知らせ、興味をもたせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に訪ねることができることを喜んでいました。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園出発 →とんがらし地蔵管理人の松本さんから話を伺う。 →八坂神社「筆塚」 →宝泉寺「持ち上げ観音」 →大昌寺「時の鐘」 →幼稚園着 	<ul style="list-style-type: none"> ・とんがらし地蔵では、当時は病気になると、今のようにすぐに医者にかかることができず大変であったことを知らせ、今と昔の違いを知らせる。 ・筆塚の由来を聞いて、小学校就学を控えた自分達と重ねて、より身近に感じることができるようにする。 ・持ち上げ観音では、まつられている観音像が持ち上がると願いが叶うと言いつたことを知らせ、興味をもたせていく。 ・時の鐘では、昔は時計がなく、お寺の鐘で時間を知らせていたことを知らせていく。 	 <p>「本当に石に穴が開いている！」</p>  <p>「大きな音だなあ。」</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・四谷地区に伝わるウナギの話の他にも様々な物語があったことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような場所を訪ねたかを振り返りながら、子供達の感じた事、印象に残ったことを聞き取っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「昔は病気になるとたいへんだったんだね。」 ・「鐘の音、大きかった。」 <p style="text-align: right;">など</p>

活動内容③ 「自分達が聞いた話の紙芝居を友達と作って発表する」

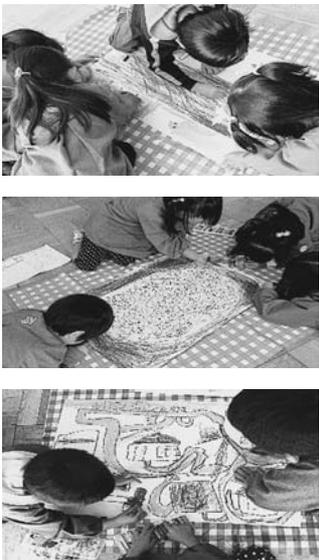
＜場面のイメージを膨らませる＞

ねらい：四谷のウナギの話を取り返し、場面ごとのイメージを膨らませる。

	活動の流れ	教師の援助・指導上の留意点等	幼児の反応
導入	・小峰さんから伺った話を思い出す。	・教師とやり取りしながら、自分の言いたいことを言葉で表せるようにする。	「雨がいっぱい降ると、家とか流されちゃう。」 「ウナギが、おしくらまんじゅうみたいに、ぎゅうぎゅうづめに入っていた。」 「ウナギが村を助けてくれた。」
展開	・教師とのやり取りを通して、聞いた話のイメージを膨らませる。	・より具体的な情景となるように細かい場面について確認していく。 ・子供達から聞き取った意見を取り入れながら構成図を描いて共通にしていく。	・聞いた物語を構成図にしたことでイメージが共通化した。 「地図みたいになってる」 「一階建てのおうち」 など
まとめ	・今日の活動の振り返りをする。	・場面ごとの絵の構成の確認を行い、紙芝居全体の流れを全員が理解できるようにする。	

＜絵を描く＞

ねらい：みんなで膨らませたイメージを友達と絵で表現する。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の配慮点	幼児の反応
導入	・構成図を見て、紙の中にどのように描くかを考える。	・紙のサイズの違いに気づかせ、どのような配分で描いたらよいかを考えさせる。	・いよいよ描き始めることに意欲を見せていた。 ・描き始める時、教師が確認に来るのを待っていた。
展開	・絵を描く。	・同じグループの友達と協力して絵を描けるように分担させていく。 ・言葉を聞き取る力や相手に伝える力は個人差があるので、互いの言葉を理解して作業できるように仲介していく。	
まとめ	・みんなで話したことが表現されているかをみんなで確認する。	・自分達の聞いたことが表現され、他のグループとのつながりができているかを確認させていく。	

<紙芝居を披露する>

ねらい：自分達で作った紙芝居を使って、四谷のウナギの話を披露し、充実感を味わう。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の配慮点	幼児の反応
導入	・発表するにあたり、どのように話したらよいか確認する。	・どのように話したら聞いている人に伝わるかを子ども達に意識させて、発表する意欲をもたせる。	「見せるのが楽しみ。」 
展開	・発表する。	・安定した気持ちで自信をもって発表できるように言葉をかける。	
まとめ	・自分達が行っている時の観客の様子や自分が行った感想について話す。	・一人一人の発表した感想や友達からの感想を聞いて満足感を味わうことができるようにする。	「できたね。」 「うまくいったね。」 ・退場する時に保護者に満足そうに手を振っていた。

3. 成果と課題

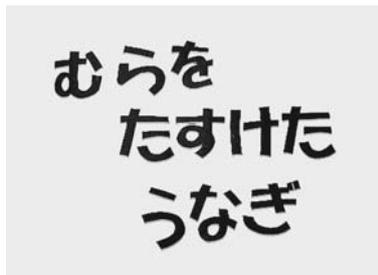
(1) 成果

- ・物語にまつわる地域を訪ね、語り継がれてきた話を地域の人から直接聞いたり、今まで大切に守ってきた仏像などの物を間近で見たり触れたりすることで、子供達の心に残ったと思われる。
- ・地域の人から聞いたことを子供達がさらに家族へと伝えていく事で、語り継ぐという行為を体験することができた。
- ・今回の子供達の取り組みを、保育参観や発表の場を設けて保護者に見てもらうことで、保護者も地域に関心をもつよい機会となった。子供達の発表後に参観した保護者対象に行ったアンケートでは、(回収率75.8%) 四谷のウナギの話を初めて聞いた人が58.6%であった。内容がよくわかったと答えた人は全体の81.8%であり、子供達にとって身近な保護者に語り継ぐことはできたと思われる。中には「本人も地元の話にすごく興味をもったようで、郷土教育はとても良いと思います。」という意見もあった。

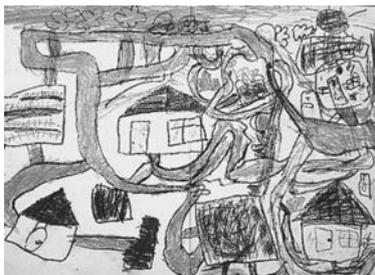
(2) 課題

- ・今回取り上げた幼稚園周辺地域にまつわる昔話以外にも日野市には様々な昔話があるので、今後も触れる機会を設け興味の幅を広げていくことが大切である。
- ・子供達にとって素話で聞いたことは未知なことがほとんどであり、昔の生活や物語の情景をイメージするのは難しかった。物語に出てきた「土手」「うなぎ」「洪水」などの言葉がどのようなものなのかを知らせたり、昔の暮らしがわかるような資料を準備したりするなどの工夫が必要だった。

子供達が作成した 紙芝居「むらをたすけた うなぎ」



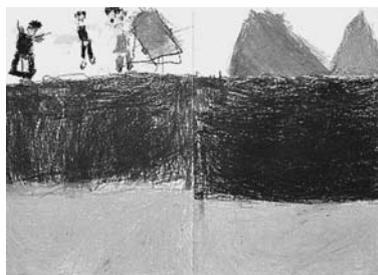
①これから、紙芝居を始めます。「村を助けたうなぎ」のお話です。はじまり はじまり……



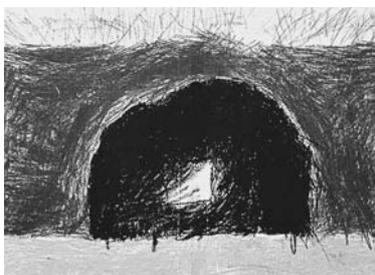
②むかしむかしあるところに「日野の四谷」というところがありました。



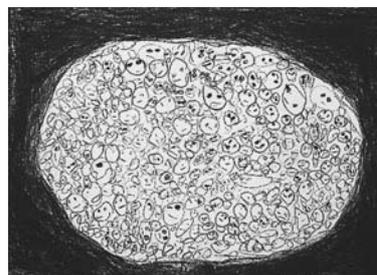
③雨がいっぱい降ると、家が流されたり、野菜が泥だらけになったりしてしまいます。村の人は、みんな困っていました。



④雨がたくさん降って、川の水が増え、土手を越えて村に水が来そうになりました。



⑤大変！ 土手に穴が開いちやった。村に川の水が入ってくる？



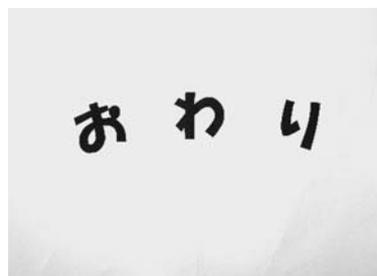
⑥すると、川からウナギがやってきて、穴の中でおしくらまんじゅうを始めました。だから、村に水は来ませんでした。



⑦「やったー、村が助かった！ うなぎさん、ありがとう。」と言いました。



⑧ウナギが村を助けてくれたので、ウナギを食べないことになりました。大人は子供に、このお話を伝えていきました。



⑨めでたし めでたし

(高橋 吉美)

指導にあたり、地域の幼稚園だからと園児達に快くお話して下さいました日野宮神社氏子会総代小峰勉様、トンガラシ地蔵を管理されている松本保様、大昌寺住職杉浦靖俊様をはじめ、ご協力いただきました八坂神社、宝泉寺の皆さま、そして、ご指導いただきました郷土教育推進研究委員会顧問小杉博司様には心より感謝申し上げます。

参考文献 「ひのっ子 日野宿発見」平成23年 日野市教育委員会発行
「幼稚園教育要領」文部科学省

(3) わくわく町たんけん

(第2学年 生活科)

1. 教材化の意図

本校は、多摩都市モノレールの甲州街道駅と万願寺駅の中間に位置している。多摩都市モノレール開通後急速に住宅が増えた。本校の児童数も毎年増えているが、元々本校周辺には住んでいなかった家庭も少なくはない。住宅増加と共にモノレール開通前に多く見られた畑の数も減少している。元々田畑の多い場所であったため、本校周辺には歴史的建造物や商店街といったものあまり見られない。古くからあった数少ない店舗も店を畳んでいるところが多く見られる。一方でモノレール開通と共に事業展開した企業や店舗もあり、周辺には様々な業種の店舗が見られる。

本校は、多くのボランティア、登下校時の見守り、外部講師など地域の方々に支えられている。子供たちは、学校以外でも多くの人々に支えられている。今回の授業では町で働く人たちに焦点を絞り、自分たちの生活の為に働く人たちの想いや努力を知ること、生活面でも多くの人々との関わりに気づき地域への愛着をもてるようにしたいと考える。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

自分の身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、またそこで働く人たちの人々の想いや工夫を知ること、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。

(2) 単元の指導計画 (10時間)

次	時	活動内容	・教師の支援 評価 (○)
導 入	1	・学校周辺の公共施設、店舗について知っていることを話し合う。	・見たことはあるがどんな仕事をしているか分からないといった疑問をもたせ、興味関心をもたせる。 ○気付いたこと、知っていることを話し合っている。
	2	・学区内を歩き、施設や店舗の確認、発見をする。	・普段は気にならないような店舗にも目を向けさせる。 ・ワークシートに気になった店舗を書かせる。 ○調べてみたいことや行きたいところをワークシートに書いたり、話し合おうとしたりしている。

展 開	3	<ul style="list-style-type: none"> ・行ってみたい施設、店舗を決めグループごとに学習の計画をたてる。 ・話し合いを基に質問したいことを決め、カードに書く。 ・質問の練習、分担など行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを決め安全に気をつけながら探検に行けるようにする。 ・訪問先の店舗に失礼が無いようにする。 ・地域のための企業努力について質問できるように促す。 ・インタビュー内容が目的にあっているか確認する。 ○探検の計画を立てようとしている。
	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに町探検をする。 (保育園、美容室、100円ショップ、コンビニエンスストア、老人ホーム、酒屋、クリーニング店、農家、児童館、郵便局、警察署、米屋、デイサービス、車販売店) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の歩き方、店舗での挨拶など、安全やマナーにつて再確認しておく。 ○質問カードを基にマナーを守りながらインタビューしようとしている。
	6 ・ 7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報をまとめ、発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗に行ったことのない人でも、そこがどんなところなのかが分かるようにまとめさせる。 ・発表時に役割分担が均等になるようにする。 ○町探検で気付いたことなどを思い出したり、記録を集めたりしている。
ま と め	8 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になった人や家の人を招待し、まとめて分かったこと、調べて分かったことなどをグループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの生活が、多くの人々によって支えられていることに気付いている。 ○質問し合ったり、分かったことをワークシートに書いたりしている。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに書いたことや感想を話し合うことができる。

3. 本時の指導（6・7/10）

（1）ねらい

- ・活動を振り返り、町探検を通して見つけたこと、気付いたことなどをまとめ、自分たちの住んでいる町を理解するとともに、さらに興味・関心を深めることができるようにする。

	主な学習活動	評価（○）留意点（・）
導入	・町探検に行って気付いたことを話し合う	○店舗で調べてきたことを発言している。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">町たんけんのはっぴょうじゅんぴをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・町たんけんでは調べてきたことで発表に適しているものを精選する。 ・発表するものを紙芝居で表す。 ・発表練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べてみないと分からないようなことを選んでいる。 ○市内のお客さんに対してのサービス等に注目できているか。 ・発表時に発表する側、聞く側に分かれ前半後半でおこなうためグループを二つに分ける。
まとめ	・店員の努力について気がついたことをかくにんする。	○自分たちが調べたこと以外でもお店の工夫や努力を知ろうとしている。

4. 活動のようす

情報交換



学校周辺の店舗や施設について、知っていることや気になる場所について話し合い、次時の町たんけん（下見）の目安にした。

お店の中を少しだけ覗かせてもらうこともありました。



普段通り慣れている通学路でも、意識することで多くの発見があった。

学区内でも登下校時に通らなかったり、自宅から離れていたりする店舗を初めてみることもあり、学習への興味が高まっていた。

町たんけん計画



グループで話し合い質問を厳選しました。



お店の人に失礼のないように練習しました。

行ってみたい店舗・施設ごとにグループに分かれ、質問や調べることを決める。行った先で円滑に活動を行うための練習も真剣に行う様子が見られた。

町たんけん



どんなことが大変ですか？

美容室



米屋

お米がこんな風に売られているのを初めて見た。

お店や施設の見学、職場体験を通しそこで働く人と触れ合い、質問にも答えてもらった。

発表会練習



発表はゆっくり、はっきり、大きな声で!!
発表をしていない時の態度にも気をつけました。

発表会

学校公開に合わせて発表会を行う。お世話になった店舗や施設の方にも来ていただいた。



町たんけん 2年 1組 名前

〇たんけんたいメンバー

リーダー 行き先 いしたほいせん

メンバー

聞きたいこと	こたえ
① ようちんとほいせんはどこのちがうですか?	たかいしがある、はやくる人っている。
② みんなかかえたのはなにをいっているんですか?	6いり分には木らもかかえやがてしている。
③ しごとでいろいろありますか?	ちがいのがおもてしやがてです。
④ おいせんし「何はんなんい」からなんじですか?	0-2さいは12-2:30 3-5さいは1-2:30
⑤ えんせいはなんじですか?	いきま。

わかったこと、見つけてきたこと

Mがちいかったこと、先生が4人いることわかった。5さいのクラスに23人いることわかったほいせんどうかいのれんしゅうをしたりおどりをしたり、たをうたしました。みんなかかえ、ました。4人さいのクラスに23人いました。あと3さいのクラスに2人います。またうまれたばかしのつがねでした。きんぐらでてつくりのつがねをつくりました。そのうのつがねはかたいたをうたです。たのしかたです。

しつもんカード 9月 17日 名前 ()

●聞く人... ○

●こんなことを覚えてほしい
(先生はなんん人いるんですか) 43人

●しつもんしたいりゆう
子どもか「いい」はいるるとたいいんだからなんん人いるから

メモカード ... 月 日 名前 ()

●こんなことを覚えてほしい
(へやはなんこあるんで) すか 11:

●しつもんしたいりゆう
なんへやあるか見ただけじゃわからな人から

●先生がエフロンをつけているか
●ともしつがあるか

●たいいくかんがあるか
●さけうしよんしつがあるか

5. 成果と課題

成果

- ・普段目にしている店や施設について、どんな店や施設でどんなことをしているのかを知ることができた。
(米屋でのお米の販売方法が、スーパーとは違って量り売りをしていることなど)
- ・店舗の利用者として当たり前のように買い物をしているが、そこで働く人たちの想いや努力を知ることによって、今までよりも身近に感じられるようになった。
- ・畑や食品関係の仕事について学ぶことにより、給食時の好き嫌いをなくすという意見が出た。他にも物を大切にしようと思ったとの感想を聞くことができた。
- ・グループに分けて活動することで、見たことはあるが行ったことのない店舗・施設の仕組みや働きを知る機会になり、「今度行ってみたい」という気持ちが起こり、地域についての関心が高まった。

課題

- ・継続的な関わりをもてるようにしていきたい。特にデイサービスや老人ホームなどとは、手紙の交換や行事への招待など。
- ・地域ならではの店舗・施設での活動をすれば、更に郷土に対する興味・関心を深められたと考えられる。
- ・働く人たちが、「地域のお客さん」の為にしている工夫にあまり視点が及ばなかった。2年生には少し難しかったかもしれないと感じた。

(4) レッツゴー！あさひがおか たんけんたい！ ～『ぶらぶら探検』を通して、地域に愛着をもつ～

(第2学年 生活科)

1. 教材化の意図

1年生の生活科の学習で行った「まちたんけん」では、旭が丘小学校の学区域を「旭が丘コース」と「西平山コース」に分けて、地域の探検へ出かけた。1年生全員と一緒に「旭が丘中央公園」「大和田グラウンド」へ向かい、今までの生活の中では気付かなかったものを見つけたり、動植物に触れたりする学習活動を行った。

児童は、自由に公園で遊んだり、散歩をしたりすることで、自分たちの視点で四季の変化に気付き、「変わるもの」と「変わらないもの」に目を向けていくことができた。そして、学区内のそれぞれの地域について、「お店が多い地区」「家が多い地区」「緑や畑が多い地区」と、大体のイメージをつかむことができた。

2年生の「まちたんけん」では、「ぶらぶら探検」を行った。「ぶらぶら探検」とは、地図とカメラと探検ボードをもち、地域のお気に入りの場所を探検するという学習である。その中で、場所やものに限らず、そこにいる「人」にも注目して、インタビューしたり触れ合ったりする活動を取り入れた。

行きたいコースごとに、1チーム5名ほどで、班編成を行った。そして、そのチームの中で、行きたいお気に入りの場所を決め、その場所を回るルートを自分たちで考えて探検をした。すべてのコースに1名の保護者の方に付き添ってもらい、安全確保をお願いした。

「ぶらぶら探検」を行うごとに「発見メモ」を元にして「ニュースカード」を書く活動を取り入れ、ただ探検をして終わることのないようにした。また、ニュースカードに書いたことからベスト3を決め、班ごとに新聞作りを行った。学習の最後には、旭が丘の町にキャッチフレーズを付けるという学習活動を行うことで、地域の特色を考える機会を行った。そのような学習活動を行うことで、自分たちの町の「よさ」に気付き、それらを大切にできる心情を育てていきたいと考えた。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

- 地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所に関心を持ち、親しみや愛着をもって、人々と適切に接したり安全に生活したりしようとするができる。
- 地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所との関わり、人々と適切に接することや安全に生活することについて、自分なりに考えたり工夫したり振り返ったりして、それを素直に表現することができる。
- 自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわりをもっていることが分かり、地域のよさに気付くことができる。

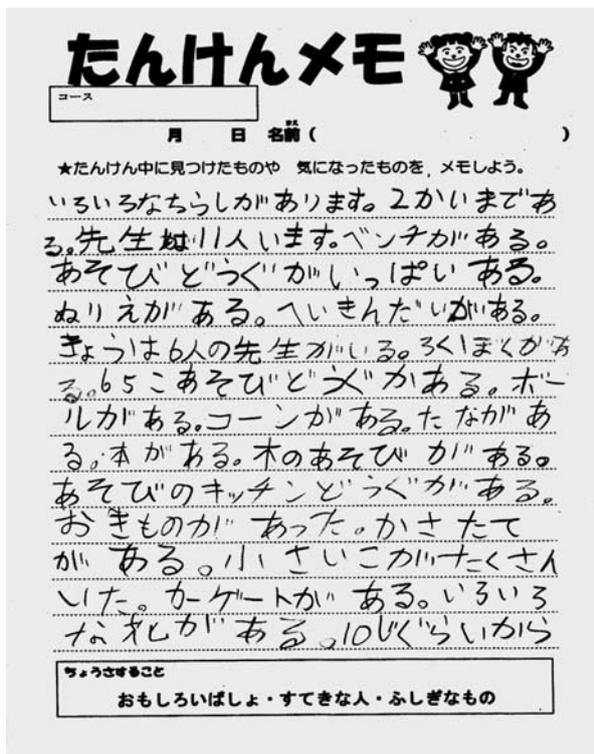
(2) 単元の指導計画 (17時間)

	主な学習活動・学習内容	評価 (○)
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ぼくたち わたしたち あさひがおか たんけんたい！ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学区の地図 (マイマップ) を見て、町の大体の様子をとらえ、自分の家の場所を探しシールをはる。 ・自分の町の中で、お気に入りの場所やおすすめの場所について、友達に教える。 ・町探検の約束を考え、ぶらぶら探検の方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○旭が丘の町に関心をもち、お気に入りの場所について考え、友達に伝えようとしている。 (行動・発言) ○安全に気をつけて町探検をするためには、どうしたらよいか考えようとしている。 (観察・発言)
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> あさひがおか ぶらぶらたんけん① </div> <ul style="list-style-type: none"> ・黄色コース (首都大学方面) をクラスで探検する。 ・赤 (シティハイツ方面) 緑 (西平山方面) 青 (旭が丘中央公園方面) コースを学年で探検する。 ・探検で見つけた ①不思議なもの②出会った人③おもしろいものや場所について赤の付箋を書き、マイマップにはる。 ・はった付箋の中から、ぶらぶら探検②でも行きたい場所を決め、ニュースカードに書く。 ・行きたい場所が同じ児童で集まり、ぶらぶら探検②では、どの順番で探検をするか決め、グループで役割分担をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○探検しながら、気付いたことをメモに取ったり、友達や教師に伝えたりしている。 (メモ・発言) ○探検についてニュースカードに絵や文で表している。 (発言・ニュースカード) ○ニュースカードを見ながら、行きたい場所を決めている。 (観察・発言)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> あさひがおか ぶらぶらたんけん ② ③ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶらぶら探検②をグループで行く。 たんけん後に、ぶらぶら探検②で見つけたものを、黄色の付箋に書き、マイマップにはる。その中からまた行きたい場所についてニュースカードを書く。 ・グループでぶらぶら探検②について振り返り、ぶらぶら探検③でもっと知りたいことや、聞きたいことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の一員として、マナーを守り、安全に気を付けて活動しようとしている。(行動・観察) ○地域の人々や様々な場所に親しみや愛着をもち、繰り返し関わろうとしている。 (発言・ニュースカード)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ぶらぶら探検③にグループで行く。 たんけんの後に、ぶらぶら探検③で見つけたものを、緑の付箋に書き、マイマップにはる。 ・たんけん報告書にぶらぶら探検③で調べたこと、わかったことを絵や文で表す。 	<p>○探検で見つけた場所やもの、人との関わり、気付いたことを絵や文で表したり、友達に伝えたりすることができる。</p> <p>(発言・ニュースカード)</p>
<p>まとめ</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">たんけんしたことを みんなにしらせよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・探検のまとめを行い、旭が丘の町について気付いたことを発表し合う。 ・あさひがおかの町にキャッチフレーズを付ける。 ・発表会をし、学習の振り返りを行う。 	<p>○町探検で見つけた場所やもの、人々との関わり、気付いたことなどを表している。(発言)</p> <p>○親しみや愛着のある場所が増え、自分たちの地域の良さに気付いている。</p> <p>(発言・作品・振り返りカード)</p>

3. 活動の様子

(探検のときに書いたたんけんメモ)



視点は「おもしろい場所・すてきな人・ふしぎなもの」の3つ。

どの児童も、紙いっぱい気付いたことをメモしました。

最初は、見たものだけを書いていた児童も、たんけんを続けるうちに、この視点にそった発見ができるようになっていきました。

たんけんの途中で、あさひがおか児童館へ立ち寄りしました。児童館の先生たちが、招き入れてくれて、児童館の中もたんけんしてきました。

近くのスーパーでインタビュー。

どんな花や野菜があるのか、人気のもの、お店の工夫、季節もからめて教えてもらいました。

旭が丘小学校以外の小学校や大学の様子も見てきました。

たんけんメモ



コース きいふ

5月 20日 名前 ()

★たんけん中に見つけたものや 気になったものを メモしよう。

- ・わたしたちは、きれいなお花をとった。
- ・お花やさんは、9時からやめる。
- ・~~お花~~お花がよかったです。
- ・お花やさん、きゅうり、きゅうり
- ・お花は、カーネーション、バラのカーネーションが来た。
- ・インタビューのお花がきれい。
- ・このお花は、まだじょうきょうしてない。
- ・王子ひがし小学校のまどが58こもあった。
- ・てんしゃがいっぱいあった。
- ・おんなじ木がいっぱいあった。
- ・サッカーゴールがいっぱいあった。
- ・たいやがこうていにおいてあった。
- ・ほとんど"せんふ"おんなじ木だった。

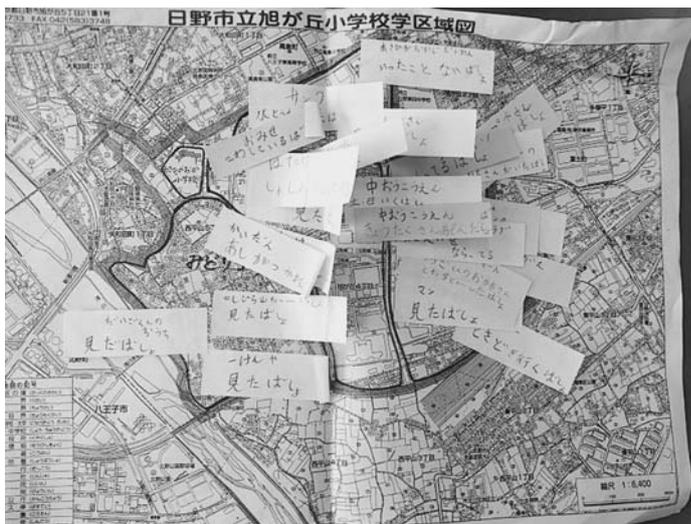
ちゅうさすること

おもしろいばしょ・すてきな人・ふしぎなもの

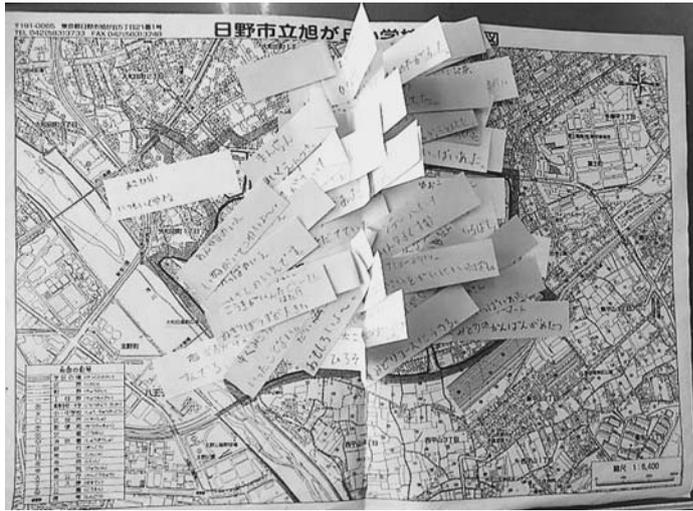
(たんけんマップ)

探検をするたびに付箋の色を変えて、新しく発見したことをマップへはっていました。

新しい発見をすると、どんどん付箋の数が増えていくことに児童は喜び、意欲的な活動につながりました。



- ・富士山が見える場所
- ・いつもお買いものしている場所
- ・行ってみたい遊具のたくさんある公園
- ・いつもたくさん遊んでいる公園
- ・長い階段や坂道



- ・生活科で野菜の苗を買いに行った場所
- ・国語で勉強した「ねぎぼうず」がたくさんあった場所
- ・きゅうりを育てている畑
- ・通っていた幼稚園

(ぶらぶら探検後に班で作成した新聞)

班でたんけんのまとめを見合いながら、コース別にベスト3を決めました。理由もしっかりとつけて発表原稿を作り、学級で発表会を行いました。それぞれのコースのことを学級で共有し合うことで、行っていないコースについても分かり合うことができました。班で各コースのベスト3を決めて、絵や写真、文で新聞にまとめました。写真は、自分たちでたんけんの時に撮った写真を使いました。



(キャッチフレーズ)

学習の最後に自分たちの町に「キャッチフレーズ」をつけ、学校公開中に発表会を行いました。保護者の方にも聞いていただくことで、自分たちの町を「自慢したい!」と、児童も意欲的でした。

しぜんやおどりがとてもきれいな 町、あさひがおか

みんながたのしくて、みんなが
うれしくなる 町、あさひがおか

たのしいみどりのしぜんな 町、あさひがおか

4 成果と課題

(1) 成果

- ・各班に保護者1人が引率と安全確保のため付き「ぶらぶら探検」を行うことで、それぞれの児童が確実に「自分の行きたい場所」へ行くことができ、地域についての学習を深めることができた。保護者の方の協力が必要不可欠な学習であった。
- ・探検をして分かったことについて、カードにまとめたり新聞を作って発表会を行ったりする学習活動を行うことで、だれかに地域について「伝えたい」という意識をもって学習を進めていくことができた。

(2) 課題

- ・地域学習を行う上で、地域のことについて何でも知っているようなゲストティーチャーがいてくれたら、と感じることがあった。地域教材の開発とともに、地域の方からの協力体制も作っていきたいと感じている。

5 参 考

平成26年5月20日 生活科学学習指導案 日野市立旭が丘小学校 樋口玲奈教諭

(旭が丘小学校 岩井 美保)

(5) 「広げよう！ぼくたちわたしたちの世界」

(第3学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

3年生になって社会科では、地域を素材にした学習が増えてきた。1学期には「いちご農園」や「なし園」へ見学に行き、普段よく口にする身近な果物が自分たちの住んでいる地域内でも育てられていることや、おいしく育てるための工夫や苦勞などを学ぶことができた。それだけでなく、学区内を歩いて、学校の周りや自分たちの住んでいる地域の様子について実際に目で見て、学習を行ってきた。また、2学期には「スーパーアルプス」や「高幡不動尊」、「百草ファーム」などを見学し、地域にある施設に目を向けた学習を行ってきた。

さらに、いなほタイム（総合的な学習の時間）では、社会科の学習から一歩進めて「広げよう！ぼくたちわたしたちの世界」という単元で学習を進めてきた。自分たちで地域のためにできることを見出し、実際に地域へと出ていきながら地域に貢献できることを考えた。この地域でやってみたいことが同じ児童同士でグループをつくり、そのグループ内で地域への貢献の仕方を決めて、どうすれば地域への貢献という課題を達成することができるのかを必死に考えている姿が見受けられた。この学習を通して、立派な地域の一員として「地域内で何かをする」「地域のために何かをする」ことが楽しい、達成感があると体験的に実感させていく。そして、地域に愛着をもった「ひのっ子」の育成を図る。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

- ◎豊かな里（特別養護老人ホーム）にいるお年寄りの方との関わりを通して、自分も地域の一員として貢献できることがあるということに気付くことができる。
- ◎「地域内で何かをする」「地域のために何かをする」とお年寄りの方たちが喜んでくれることを理解し、地域への愛着をもつことができる。
- ◎グループでの話し合いからお年寄りの方に何ができるのかという課題を設定し、自ら進んで取り組み、仲間と共に解決していくことができる。

(2) 単元の指導計画（全18時間）

過程	ねらい	主な学習活動・学習内容	資料（・）・評価（○）
つかむ (2時間)	◎お年寄りの方たちに対して自分達には何ができるか考えながら、友達と協力して、グループの活動計画を立てることができる。	● 1回目の活動に向けての活動計画をワークシートに書き込む。 ・ 1回目の活動目標を話し合う。 ・ お年寄りの方が喜んだり、元気になったりすることは何か話し合い、活動内容を決める。 ・ 活動に必要なものや活動するときの約束について話し合う。 ・ 役割分担をする。	○自分の考えを活かして活動に取り組める課題を設定している。 ○お年寄りの方との関わり方を楽しみながら、自分なりの方法で活動しようとしている。

<p>追究する (13時間)</p>	<p>◎活動計画に沿って、1回目の豊かな里での活動を行うことができる。</p> <p>◎活動を振り返り、次の活動をよりよいものにすることができる。</p>	<p><1回目の豊かな里での活動></p> <p>●活動計画に沿って活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めての活動のため、豊かな里にはどのようなお年寄りの方たちがどんな生活をしているのかを学びながら活動をする。 <p>●活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分としての取り組みはどうだったかを振り返る。 ・グループで <ol style="list-style-type: none"> ①満足したこと ②わかったことやできるようになったこと ③活動をしていてつらかったこと ④心残りなこと について振り返り、振り返りシートに書き込む。 	<p>○地域のよさに気付いている。</p> <p>○自分も地域の一員であるということに気付いている。</p> <p>○感じたことや思ったこと、考えたことなどを友達に伝えている。</p>
	<p>◎2回目の豊かな里での活動に向けて活動計画を立てることができる。</p>	<p>●どうすればお年寄りの立場での活動ができるかを考えながら、2回目の豊かな里での活動に向けての活動計画をワークシートに書き込む。</p> <p>(話し合う項目は前回と同じ。)</p>	<p>○前回の老人ホームでの活動経験を基にして、課題を深めたり、広げたりすることができる。</p>
	<p>◎活動計画に沿って、2回目の豊かな里での活動を行うことができる。</p> <p>◎活動を振り返り、次の活動をよりよいものにすることができる。</p>	<p><2回目の豊かな里での活動></p> <p>●活動計画に沿って活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの方たちに何か話しかけるときはゆっくりと大きな声を出すことや身振り手振りを使って会話をするなど前回の活動での反省を活かして活動する。 <p>●活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目の活動での反省点が2回目の活動で改善されていたかや、2回目の活動でできるようになったことを重点的に振り返る。 	<p>○お年寄りの方たちの立場や思いが分かり考えをもって適切にかかわっている。</p> <p>○お年寄りの方たちと接する心地よさを味わって活動している。</p> <p>○活動を通して自分のよさに気付いている。</p>

	<p>◎ 3回目の豊かな里での活動に向けて活動計画を立てることができる。</p> <p>◎活動計画に沿って、3回目の豊かな里での活動を行うことができる。</p> <p>◎活動を振り返り、次の活動をよりよいものにすることができる。</p>	<p>● どうすればお年寄りを喜ばせる活動ができるかを考えながら、3回目の豊かな里での活動計画をワークシートに書き込む。 (話し合う項目は前回と同じ。)</p> <p>＜3回目の豊かな里での活動＞</p> <p>●活動計画に沿って活動をする。 ・お年寄りの方たちの立場になりながらかわり、活動の時間配分等も考えながらグループの友達と仲良く活動する。</p> <p>●活動の振り返りをする。 ・1、2回目の活動での反省点が3回目の活動で改善されていたかや、3回目の活動でできるようになったことを重点的に振り返る。</p>	<p>○前回の豊かな里での活動経験を基にして、課題を深めたり、広げたりすることができる。</p> <p>○お年寄りの方たちの立場や思いが分かり、考えをもって適切にかかわっている。</p> <p>○お年寄りの方たちと接する心地よさを味わって活動している。</p> <p>○活動を通して自分のよさに気付いている。</p> <p>○地域の中でのお年寄りのよさに気付いている。</p> <p>○自分も地域の一員であるということに気付いている。</p>
<p>まとめ (3時間)</p>	<p>◎全3回の豊かな里での活動で、わかったことやよかったことなどを振り返ることができる。</p> <p>◎活動の成果についての発表から自分たちでも地域に貢献できることに気付くことができる。</p>	<p>●全3回の豊かな里での活動を振り返る。 ・グループの目標をどのくらい達成できたのかを話し合う。 ・活動をして、よかったことやわかったことを話し合う。</p> <p>●全3回の豊かな里での活動を行ったの成果について紙芝居にしてまとめ、グループごとに発表する。</p> <p>●他のグループの発表を見て、よかったことを伝える。</p> <p>●活動を終えて、地域に住むお年寄りの方たちとかかわることのよさや楽しさについて考える。</p>	<p>○活動をして、自分たちの設定した目標にどれだけ近付けたかを話し合っている。</p> <p>○成果についてわかりやすく発表している。</p> <p>○自分のよさや地域のよさについて表現している。</p> <p>○地域の一員として自覚している。</p>

3. 本時の指導

(1) 本時のねらい

豊かな里の方たちとのかかわりを通して、自分たちでも地域のためにできることがあることを実感することができる。

(2) 展開 (3・4・5/18時間)

学習活動	指導上の留意点・評価 (○)
<p>1. グループごとに今回の豊かな里での活動に向けた活動目標を確認してから出発する。</p> <p>〈今回の活動目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃん、おばあちゃんたちがどれだけ大変なのかを知る。 ・迷惑をかけずに活動して、おじいちゃん、おばあちゃんを喜ばせる。 ・おじいちゃん、おばあちゃんを元気にする。 <p>2. 豊かな里の担当者の方とお年寄りの方たちにあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりどのような思いでお年寄りの方たちと関わりに来ているのか伝える。 	<p>◇緊張して上手くできなかった場合は、もう一度やるように声かけする。</p> <p>◇お年寄りのため、地域のために活動する、という意識をしっかりとらせる。</p>
<p>3. 活動計画に沿って活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居の読み聞かせをする。  <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで校歌を歌う。 ・折り紙のプレゼントを渡す。   <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの方たちの間に入って会話（お年寄りの方たちの子供の頃の話の聞いたり、自分たちの学校生活について話したりする）をする。 	<p>◇時間配分を考えて進めていくよう声かけする。</p> <p>○お年寄りの方との関わり方を楽しみながら、自分なりの方法で活動しようとしている。</p>

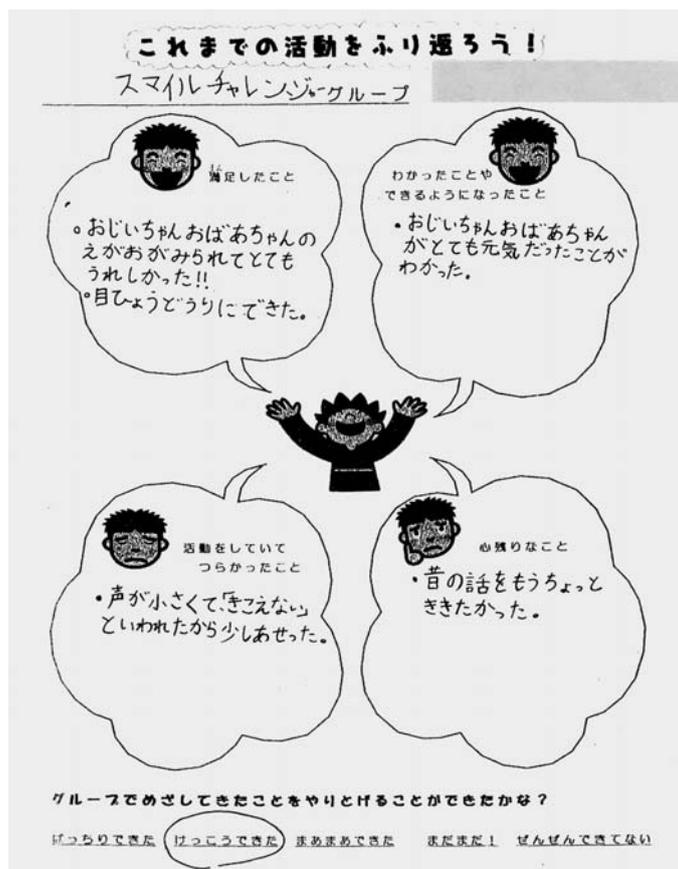
<p>4. 豊かな里の担当者の方とお年寄りの方たちにお礼のあいさつをして学校へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の活動を通して、どんなことを学んだのか感じたのかについて話し、また来させていただくことを伝える。 	<p>◇緊張して上手くできなかった場合は、もう一度やるように声かける。</p>
<p>5. 今回の活動を自分としてはどうだったのか振り返りをして、ワークシートに書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が立てた目標を達成することができたのか。 ・次回はどのように活動をしたいと考えたのか。など <p>6. 以下の①～④の観点についてグループで話し合っ、振り返りシートに書き込む。(①満足したこと②わかったことやできるようになったこと③活動をしていてつらかったこと④心残りなこと)</p> <p>7. グループごとに振り返りシートに書いた内容を発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①お年寄りの方たちの昔の話をたくさん聞いた。 ②お年寄りの方たちが元気だったことがわかった。 ③「声が聞こえない。」と言われて少し焦った。 ④時間が足りなくて予定していたものが全部できなかった。 	<p>◇自分の役割をきちんと果たせたかを振り返らせる。</p> <p>○地域のよさに気付いている。</p> <p>○自分も地域の一員であるということに気付いている。</p> <p>○感じたことや思ったこと、考えたことなどを友達に伝えている。</p>
<p>8. 今回の活動の反省を活かして、次の豊かな里での活動では何ができるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな里の方とお話しをするときは大きな声で話す。 ・ゲームのルールを説明するときには、紙に書いて見て分かるように工夫する。 ・時間配分に気を付ける。など 	<p>◇活動をしていて、つらかったことや心残りなことを解決しながら次の活動につなげていくようにする。</p>



(3) まとめ

- どのグループも事前に立てた活動計画に沿って活動することができていた。
- 活動の時間が短くなってしまっても臨機応変に対応して活動することができていた。
- 相手の方が喜んでくれるかどうかより、自分たちのやりたいことを優先してしまったことがあった。
- 人数の多いグループだと、他の児童に頼りっぱなしになってしまう児童がいた。

4. 資料 ・ 児童の書いた振り返りシート



5. 成果と課題

(1) 成果

- 自分から進んでアイデアを出したり、一生懸命話し合いをしたり、活動に熱心に取り組んだりしている姿が多く見られた。
- 活動の振り返りで出た、課題点や反省点を活かして次回の活動計画を立てることで、できなかったことができるようになってきたと子供自身も実感できていた。
- 同じ施設で同じお年寄りを相手に繰り返し活動をすることで、地域に住んでいるお年寄りの方たちを大切に思う気持ちや打ち解けあうこと、お互いを分かり合うことが楽しいと感じている姿が見られた。
- 初めは『お年寄りの方たちに何かをしてあげる』という思いが強かったが、回数を重ねるうちに『お年寄りの方たちの話を聞きたい』など、お年寄りの方から学ばせてもらうという思いに変わっていった。

(2) 課題

- 回数を重ねてもあまり活動目標が変わらないグループがあったため、目標を考える際の声掛けを工夫すべきであった。
- わかったことやできるようになったことについてもっと価値付けて評価をし、自分の活動の仕方や内容に自信をもたせるべきであった。

(小林 瑞季)

(6) 水の郷 日野 ～黒川清流公園を中心に～

(第5学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

昨年度の第4学年では、自分たちの住んでいる学区域周辺の良さを知らため「多摩平団地・多摩平の森の歴史と開発」について学習した。今年度の総合的な学習の時間では、学習する地域の範囲を広げ、日野の特色の一つである「水の郷」をテーマに学んでいく。日野市は、歴史文化や優れた水環境の保全、水を活かしたまちづくりに努めており、1996年に、国土交通省より「水の郷百選」に選ばれている。多摩川や浅川、程久保川などの河川の他、日野台地や多摩丘陵から湧き出す湧水、郷土の歴史を感じさせる用水等、市内の至るところに水辺があり、豊かな自然とそれらを活かした人々の暮らしに触れることができる。その中でも黒川清流公園は、1年生で遠足に行ったり、放課後友達同士でザリガニやサワガニ、植物や野鳥を観察しに行ったりと、本校児童にとって身近な場所である。本単元では、黒川清流公園を中心に学習を進め、日野市全体の豊かな水環境について学びを深めていく。日野という土地の特色や自然と人々のつながりについて知り、地域を愛する心、日野市の自然を大切に守り続けていく心を育てていく。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

- ・河川や用水、湧水など日野の特色や自然と人々のつながりについて知り、郷土に愛着をもち、地域の自然を大切に守り続けていく心を育てる。
- ・知りたいことや深めたいことについて、本やインターネット、取材などで調べたり、友達と協同して調べたりする活動をすることで、学び方や協同的に取り組む態度を育てる。
- ・友達と一緒に調べる活動や調べたことを交流する活動を通して、学び合いの良さを実感させ、自発的に学びを深め合う習慣を身に付けさせる。

(2) 単元の指導計画 (全20時間)

	時	主な学習活動	資料(・) 評価(○)
学習課題を知る	1 ・ 2	1. 日野市の特色について考える。 ・日野市には、どのような特色があるか考え、交流する。 (日野市の特色…多摩平の森、新選組、カワセミ、用水、湧水、自然、大型ショッピングセンター、住宅、黒川清流公園、多摩動物公園、工業地域)	・日野市市制施行50周年記念誌『日野流』 ・日野市役所ホームページ

		<p>2. 日野市は「水の郷100選」に選ばれている（東京都では日野市と墨田区が選ばれている）ことを知り、学習の見直しをもつ。</p> <p>（黒川清流公園・多摩川と浅川・日野の湧水や用水などの歴史や自然、人々の暮らしについて）</p> <p>3. 学習の調べ方について考え、学習計画を立てる。</p> <p>（本、フィールドワーク、インタビュー、インターネット）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『水の郷 日野』法政大学エコ地域デザイン研究所編 鹿島出版会 ・「こちち良く住みつづけられるまちひの」日野市環境共生部リーフレット（2011年） ・「みず 暮らし まち 水辺のある風景日野50選」（2014年） ・『緑のまち 作文集』日野市環境緑化協会（子供の作品） <p>○日野市の特色や良さについて、今までの生活や学習をもとに考えている。</p>
<p>みんなで学びを進める</p>	<p>3 8</p>	<p>4. 「水の郷 日野」をテーマに、課題について学習を進め、深めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題について学習を深めていくために、フィールドワークやインタビューをしたり、本やインターネットで調べたりする。 ・教室での事前学習 <ul style="list-style-type: none"> ①黒川清流公園について （歴史、経緯、自然、生き物） ②日野市の河川・用水・湧水について ・フィールドワーク （黒川清流公園、浅川、図書館下湧水） ・ゲストティーチャーによる特別授業 （どんぐりクラブの方による講義・立体地図作り、日野の自然を守る会の方、地域の方） 	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市市制施行50周年記念誌『日野流』 ・『水の郷 日野』法政大学エコ地域デザイン研究所編 鹿島出版会 ・日野市役所ホームページ ・日野市環境協会ホームページ ・「こちち良く住みつづけられるまちひの」日野市環境共生部リーフレット（2011年） ・「みず 暮らし まち 水辺のある風景日野50選」（2014年） ・日野市社会科地図（日野市教育委員会） <p>○河川や用水、湧水などの日野の特色について関心をもち、自然と人々の暮らし、関わりについて理解をしている。</p>
<p>まとめの題材を明確にする</p>	<p>9</p>	<p>5. これまでの学習を振り返り、学習のまとめの題材を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと深めてみたいことについて考え、まとめの題材を決める。 <p>共通テーマ …黒川清流公園</p> <p>選択テーマ …多摩川と浅川、日野の用水や湧水等</p> <p>（水と人々の暮らし、歴史や自然、生き物について）</p> <p>6. 題材の深め方・まとめ方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究したい題材について調べる方法を話し合い、まとめの計画を立てる。 	<p>○これまでの学習から、疑問や追究したいことを整理し、まとめの題材を決めることができる。</p> <p>○まとめの題材についてどのように深めまとめていくか、学習の計画を立てている。</p>

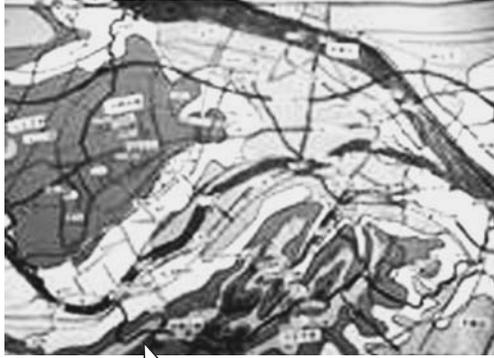
題材について深め、まとめる	10 ～ 12	<p>7. 調べ学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するために、必要な情報を収集する。 ・インタビュー (市の職員、郷土資料館の方、どんぐりクラブの方、地域の方、保護者) ・書籍 (学校図書室や市の図書館) ・インターネット 	<p>○テーマに沿った資料を見て調べたり、友達と協力したりして、追究したい題材についてまとめている。</p>
	13 ～ 16	<p>8. 調べたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめかたについて知る。 ・調べ追究したことについて分かりやすく図やイラストを活用したり、地域に対して自分ができることを考えたりしながらまとめる。 	<p>○調べたことや伝えたいことについて、図やデータを用いる等して分かりやすく効果的にまとめている。</p> <p>○地域に対して自分ができることを考えている。</p>
交流し、広げる	17 ～ 19	<p>9. 「水の郷 日野」をテーマに、調べまとめたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し方や資料の示し方を工夫して、発表の練習をする。 ・それぞれがまとめたテーマについて、友達や保護者、地域の方に発表する。 	<p>○話し方や資料の示し方を工夫し、伝えたいことを分かりやすく発表している。</p> <p>○友達の発表を記録しながら聞いたり交流を通したりして、学びを深めている。</p>
	20	<p>10. 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の感想を書く。 ・感想を交流する。 	<p>○日野市の特色や良さ、地域の方々の思いについて知り、今後自分がどのように生活をしていくのか自分の考えをもっている。</p>

3. 本時の指導

(1) 本時のねらい

日野台地や多摩丘陵、低地などの日野市の土地の特徴について知り、多摩川や浅川、用水や湧水の名称や位置、流れ方についてつかむ。

(2) 本時の展開 (5/20時間)

	主な学習活動	資料(・) 評価(○)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 日野市の土地のつくりについて振り返る。(日野台地・多摩丘陵・低地) 	<ul style="list-style-type: none"> 「こちよく住みつけられるまち ひの」日野市環境共生部リーフレット(2011年) 日野市社会科地図(日野市教育委員会)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 日野市の立体地図を作成し、土地のつくりや水の流れについて考えよう。 </div>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> 日野市の立体地図を作成する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「日野市 立体地図」 色が違う画用紙を重ね合わせ、立体地図を完成させました。湧水や用水も記入し、どこから流れているか考えました。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 多摩川や浅川、用水や湧水の名称や位置、流れ方について気づいたことを話し合う。 「土地が高いところから低いところへ水は流れている。」 「昔から川が流れ続けていることによって日野市の地形がつくられている。」 「用水は川から分かれて田んぼまで流れている。」 「黒川清流公園の湧水は崖の下から湧き出ている。」 	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>資料「こちよく住みつけられるまち ひの」 市内の自然や水環境について写真付きで分かりやすく掲載されています。</p> </div> <p>○立体地図づくりを通して、土地の特徴や水の流れについて気づいたことを話し合っている。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 日野市の土地のつくりや、水の流れについてまとめる。 	<p>○土地のつくりや水の流れについて理解をしている。</p>

4. 資料

【黒川清流公園】

日野台地から湧き出す湧水群と雑木林の斜面地を利用した親水公園である。以前は湿地地帯で、昭和35年頃までは池や釣り堀、わさび田があった。その後宅地化が進み、昭和48年に吹上土地区画整理事業によって公園として整備された。園内には7か所の湧水があり、水量が豊富である。平成2年度には建設省より「手づくり郷土賞」を受賞。平成18年度には国土交通省より「手づくり郷土大賞」を受賞。黒川清流公園の自然は、市の職員だけでなく地域の方々や日野の自然を守る会によって守られており、豊かな自然について学ぶだけでなく郷土を大切にしていける想いを育てる郷土教育として大変貴重な教材といえる。

(植物) …コナラ、クヌギ、ムクノキ、アブラチャン、ヌマガヤ、カキラン、ジュウガツザクラなど、現在400種類以上もの植物が生息しており、四季の変化を楽しむことができる。

(水辺の生き物) …サワガニ、アメリカザリガニ、ヌマエビ、カワニナ、マメシジミ等。

(昆虫) …ムネクリイロボタル、スジグロボタル、ヤマトタマムシ、ムツボシタマムシ、ウスバカゲロウ等。近年ホタルの数が増えてきている。

(野鳥) …カワセミ、アオゲラ、コゲラ、アカゲラ、ツミ、ツグミ、カルガモ等。日野の市鳥であるカワセミは1960年代の環境汚染により一時は幻の鳥とされていた。日野では1980年代より多摩川や浅川で見られるようになり、黒川清流公園でも秋から冬にかけて姿を現している。

【わさび田】

崖の下に流れ出る湧水を利用したわさびの栽培は100年ほど前から行われていた。多摩平団地の開発、汚水処理場の建設によってわさびの栽培は行われなくなったが、約20年前より「黒川湧水を生かす会」によってわさび田が復活した。わさびは水の流れが悪くなると育たなく、養分を含んだきれいな水が必要である。わさびが栽培できるということは、豊かな湧水があるという証拠といえる。



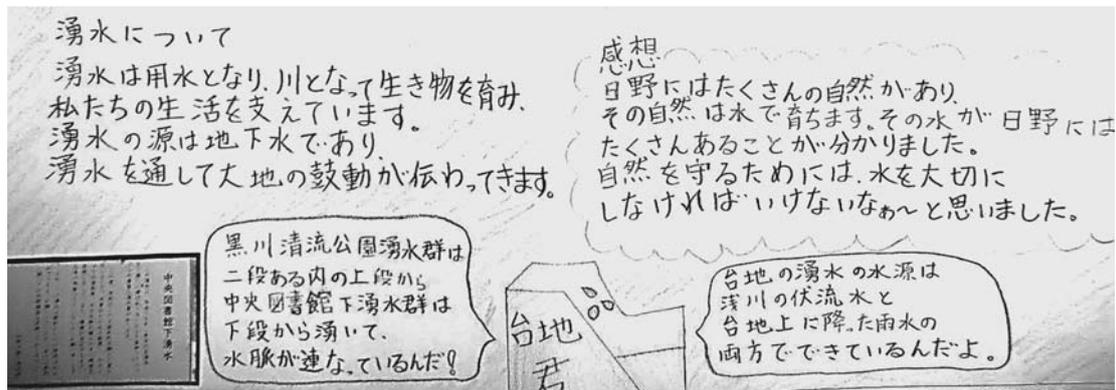
〔黒川清流公園の様子。四か所の池がある〕



〔黒川清流公園で栽培されているわさび〕

5. 活動の様子

【学習のまとめ】調べ深めたことをまとめ、発表会で報告し合いました。



6. 成果と課題

【成果】

- ・日野市のキャッチコピーを考えたりイラストに表したりすることで、日野市の様々な特色（歴史・豊かな自然・水環境・工業地域・行事等）を確かめることができた。
- ・黒川清流公園や浅川等、学区から近い場所については知っている児童が多かったが、用水や湧水に恵まれていること
- ・水の郷百選に選ばれていることについて知っている児童が少なかった。今回の学習を通して、改めて日野市の豊かな環境について学ぶことができた。
- ・自分でテーマを決めて学ぶことで、意欲的に学習に取り組むことができた。自ら進んで現地に行き調査したり、インタビューをしたりして学びを深めようとする児童が多かった。
- ・学習のまとめでは、これからどのように自然に関わっていくか考えさせた。「お家の人や親せき、六小以外の友達に伝えたい。」「自然を大切に守っていききたい。」「これからもたくさん遊びに行き自然に触れたい。」等、今後につながる感想が多くでた。

【課題】

- ・調べ学習の際、書籍やインターネットなど、読んで理解するのに難解であったり、資料が限られたりしていた。また、実際にフィールドワークに行った場所については学びが充実したが、調べたい場所すべての場所に行くことは難しかった。教材を精選し、フィールドワークに行く場所・日程を計画的に決める必要がある。
- ・「郷土を大切にしたい」「自然を守っていききたい」という気持ちを持ち続け、今後も活動が継続していくよう、総合的な学習の時間を中心とした学習の系統性を検討していく。

(鈴木 信之)

7. 参考文献

- ・日野市市制施行50周年記念誌『日野流』
- ・『水の郷 日野』法政大学エコ地域デザイン研究所編 鹿島出版会
- ・「ここちよく住みつづけられるまち ひの」日野市環境共生部リーフレット (2011年)
- ・「みず 暮らし まち 水辺のある風景日野50選」日野市 (2014年)
- ・水と緑の日野・市民ネットワーク主催シンポジウム資料「黒川清流公園の自然シリーズ」(2015年9月開催)
- ・平成18年度「郷土日野」指導事例第2集 (日野市立教育センター・郷土教育推進研究委員会)

(7) 自然災害とともに生きる

～三沢自治会自主防災会の取り組み～

(第5学年 社会科)

1. 教材化の意図

日本は、地震や噴火、台風の大雨による川の氾濫などさまざまな自然災害が起こる。それらは我が国の気候や地形の特色と関連していることを捉えさせることから始まる。その自然災害から暮らしを守るための我が国の取り組みとして、国や自治体が防災のための公共事業に計画的に取り組んでいることを調べていく活動から、日野市の防災への取り組みについて着目させたい。

日野市には、東京都より防災隣組に認定を受けた三沢自治会自主防災会という団体があり、本校の学区の近くで活動をしている。三沢自治会自主防災会の方に取材をして身近な地域の人々の防災の取り組みについて教材化を図ることで、教科書の教材よりも一層切実感をもって取り組めることをねらいとしている。身近な地域の人々の取り組みから自然災害に備えるためには地域や人と人とのつながりがとても重要であることに気付かせ、三沢自治会自主防災会が行っている防災マップづくりや防災訓練などの地域行事に対する関心を高めるとともに地域の人々の思いや願を知り、地域の活性化や社会の一員としての社会参画にもつながればよいと考えた。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

自然災害の様子やそれに備える国や地方自治体の取り組みや地域住民の協力について調べ、自然災害が起こりやすい我が国では、国や自治体による防災対策や地域住民の協力が必要であることを理解し、国民一人一人が防災の意識を高めることの大切さについて考える。

(2) 単元の指導計画 (全6時間)

過程	時	ねらい	○主な学習活動・学習内容	・資料	○評価
つかむ・学習問題作り	①	我が国の国土と自然災害のかかわりについて知り、学習問題を考える。	○自然災害と我が国の国土との関係について気付いたことを話し合う。 ○自然災害から暮らしを守るための取り組みについて学習問題を立てる。 ○学習問題に対する予想を話し合い、予想を基に学習計画を立てる。	・日本地図 ・理科年表(平成27年) ・自然災害の様子(写真・映像)	○自然災害から暮らしを守るための取り組みについて調べる学習問題を考え、表現している。 (思・判・表)
	日野市の立体地図を作成し、土地のつくりや水の流れについて考えよう。				

調 べ る	②	自然災害から暮らしを守るために国や都道府県などのさまざまな取り組みについて必要な情報を読み取り、調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ○国や都道府県が取り組んでいる自然災害に対する取り組みを予想する。 ○資料をもとにそれぞれの立場の自然災害への取り組みについて調べ、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の災害対策（内閣府） ・東京都防災ホームページ ・東京防災隣組事例集 ・日野市防災安全課職員の話 ○自然災害から暮らしを守るために国や都道府県などが、防災に対してさまざまな取り組みをしていることを理解している。（知・理）
	③	自然災害から暮らしを守り備えるために、地域住民の協力や自分にできることについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を見て、公助だけでは、地震災害対策は不十分であることを捉える。 ○地域の防災への取り組みを知り、地域住民の協力の大切さについて話し合う。 ○自然災害に備えて取り組みたいことや気を付けたことなど自分の考えをノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数（内閣府） ・三沢自治合同防災訓練のようす（VTR） ・防災訓練に参加した人の話（VTR・文章資料） ・ANNニュース映像【2分】（長野県白馬村震度6） ○地域住民が自然災害による被害を防ぐためにさまざまな取り組みを行っている意味について考え、適切に表現している。（思・判・表）
	④	自然災害に備えるための地域のあり方について考えて、暮らしを守る地域住民たちの工夫や努力、思いについて捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ○防災会の悩みを知り、自然災害に備えるための地域の在り方について話し合う。 ○自然災害に備えるために地域の一員として自分たちができることをノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三沢自治会防災会の方の話（インタビュー資料・VTR） ○自然災害の被害を防ぐために、さまざまな立場の人々が協力しながら対策をしていることを理解している。（知・理）
ま と め る	⑤ ⑥	自然災害から暮らしを守るための取り組みの重要性を、家族や地域住民に発信するためのポスターをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習したことをポスターにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで学習したことを取り入れた作品にまとめている。（技） ・自然災害から暮らしを守るための取り組みに関心を持ち、地域住民のかかわりや協力の大切さについて考えようとしている。（関・意・態）

3. 本時の指導

(1) 本時のねらい

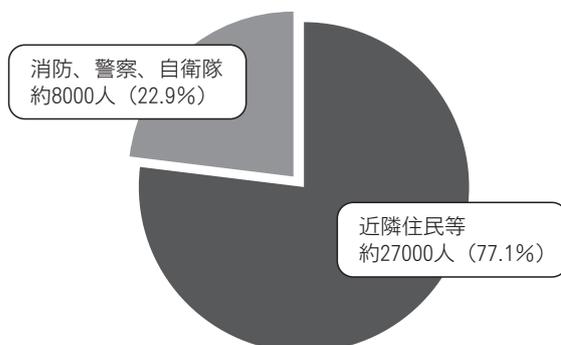
自然災害から暮らしを守り備えるために、地域住民の協力や自分にできることについて考える。

(2) 本時の展開 (3/6時間)

	主な学習活動	資料 (・) 評価 (○)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習感想を紹介し、国や都・市の防災に対する公共事業について振り返る。 ・資料①を見て、思ったことを交流する。 (震災の時、だれに救助されたか 近隣住民約77%自衛隊警察約23%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料① 阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数 (内閣府)
展開	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">八小の周りでは、だれがどのような対策をしているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練のようすを確認する。 ・防災訓練の必要性についてグループで話し合う。 ・実際に起きた大規模地震で死亡被害が出なかったのは、地域の人々のつながりであることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料②-1 防災訓練のようす (VTR) ・資料②-2 防災訓練に参加した人の話 (VTR・文章資料) ・資料③ ANNニュース映像 (VTR) 【長野県白馬村震度6弱 死者0人】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に備えて取り組みたいことや気を付けたいことなど、自分の考えをノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民が自然災害を防ぐためにさまざまな取り組みを行っている意味について考え、適切に表現している。(ノート)

資料①

阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数



導入で、左の円グラフをだれに救助されたのかを隠して提示し考えさせた。児童は前時の学習より公助の割合が多いと予想を立てたが、実際は地域住民による救助が多いことを知り、自分たちの地域の防災への取り組みに意識をもたせるきっかけとなった。

推計：河田恵昭「大規模地震災害による人的被害の予測」
自然科学第16巻第1号参照ただし、割合は内閣府追記

資料②-2 防災訓練に参加した方のインタビュー資料

「防災訓練になぜ参加しているのですか？」

Kさん

いま、災害がとても多くて「自分の身は自分で守る。」ことが大事だと思って参加しました。「隣近所も知らない。」といわれるような今の世の中だけど、このような訓練はそれぞれの地域の人がつながって、絆を深めていくいい機会であると思います。

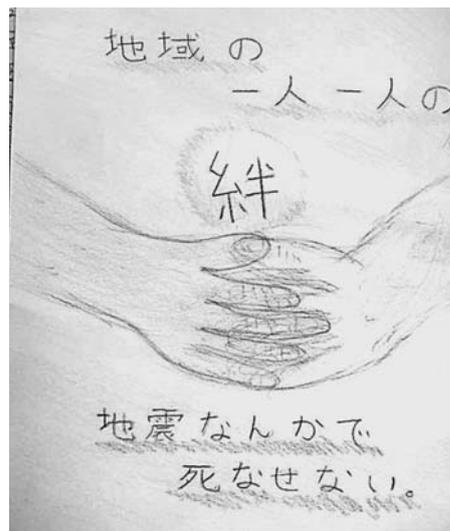
Sさん

七生緑小学校に避難する人がどんな人なのかを知り、実際に顔を合わせることが大切だと思って参加しました。年に一度くらいは、自分の自治会だけでなく、ほかの自治会の人たちも集まって、地震対策の準備を体験できることがいいなと思います。

防災訓練は「自分の身は自分で守る」「もしもの時に自分が慌てずに行動できるようにするため」等のために行われているととらえている児童が多くいたが、防災訓練に参加した人の思いを聞くことで、児童は地域で防災訓練をすることの本当の目的（共助）をとらえることができた。

（3）本時のまとめ

- ・児童の感想から「地域の人たちが行っている防災訓練に自分たちも参加してみたい。」「防災訓練には地域とのつながりを深めるといふ真の目的があることを知った。」等という、地域へ目を向けるような気持ちが見られた。
- ・白馬村のニュース映像で「声を聞いただけでもだれの声でどこにいるのかが分かる」というキャスターの言葉から、地域のつながりの大切さを改めて児童に感じさせることができた。



2. 新たに収集・開発した郷土資料・教材

(1) 万願寺一里塚と甲州街道

(第5・6学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

万願寺一里塚は多摩都市モノレール線万願寺駅からモノレール線に沿って同甲州街道駅に向かう途中にあります。

はじめは、甲州街道（甲州道中）は青柳（国立市）から多摩川を万願寺渡船場に渡り、源平島から万願寺一里塚を経て日野宿に通じていました。その後、貞享元年（1684年）に甲州街道は上流の日野渡船場をわたる道筋に変わりました。

現在残る万願寺一里塚は平成15年に調査が行われ、江戸幕府による当時の一里塚の基準通りの高さ約3メートル、5間四方約9メートルの大きさで、街道の南側にあった塚が修復・復元されたものです。街道の北側にあった塚は昭和43年（1968）に取り壊されていますが、江戸時代の街道・交通の様子や文化を今に伝える日野市の大事な文化財です。

そこで、万願寺一里塚の見学・学習をとおして、現在の場所に何故、何のために設置されたのかを調べ、現在とは異なる道筋を経て日野宿に通じていたことや、一里塚の役目や街道整備が行われていたことの理解をとおして、市内を通る甲州街道が江戸幕府を支える重要な道路であったことに関心を深めたい。

また、崩れかかっていた南側に残る万願寺一里塚を平成の時代になって調査、修理し、復元したことの意義や、このことに関わった人々の思いや考えについて学び合い、文化を引き継ぐ価値を学ぶ適切な郷土教材と考えます。

2. 指導計画

総合的な学習の時間 第5・6学年「日野のまちと甲州街道・一里塚」 12時間

単元のねらい 現在、身近に見られる甲州街道や一里塚を、400年前に遡って当時の役割・整備の様子を学ぶことで、それ以降のまちの発展に重要な役割を果たしてきたことを理解し、文化財の価値について関心をもつ。

	学 習 内 容 と 活 動	資 料
6時間	1. 昔あった街道沿いの施設等から甲州街道の働きを調べる。 ①新宿と上諏訪を結ぶ主要道路、東京都を東西に走る道路、立日橋から日野台地を通り八王子市の大和田につながる道路であることや、整備されてきた経過を調べ学習課題を把握する。 「日野をとおる昔の甲州街道の様子を調べよう」(1) ②甲州街道の様子を、建物や交通量の景観、はたご、問屋場(跡)、本陣、一里塚、日野の渡しの各写真から予想し、それぞれがどんな役割をしていたかを調べ、街道の賑わいを想像する。(1)	東京都全図、地図帳 日野宿写真館 日野市観光協会発行のしおり等

6 時 間	<p>③甲州街道沿いの日野宿史跡を②を視点に見学する。(2)</p> <p>④昔の五街道が整備されたことの話しを聞き、甲州街道の役割を理解する。(1)</p> <p>道幅5間、路面を平らにし、砂利・砂で固めた。日本橋を起点として一里毎に一里塚をつくる。宿場を定め、伝馬の制度(宿場ごとに必ず馬を継ぎかえる)。宿場には問屋を置き、一定の馬と人足を常備する義務。近所の農村から人馬を補う助郷制度。</p> <p>八王子千人同心を置き、江戸の警護。多摩川鮎の献上。</p> <p>⑤地図から鉄道、多摩川の橋、民家、土地の様子を読み取り、東の地蔵・西の地蔵の話や日野っ原に残る昔話等をおして、当時の旅の様子を考え、絵図や文にまとめる。(1)</p> <p>2. 万願寺一里塚を調べ、甲州街道の道筋が変わったことや、復元された意義を知る。</p> <p>①一里塚がどのようなものなのかを考え、その役割から、万願寺一里塚の場所を予想し、学習課題を把握する。(1)</p> <p>「なぜ、甲州街道から離れた万願寺に一里塚はあるのか。」</p> <p>②古地図から江戸時代の万願寺付近の様子を調べ、万願寺一里塚見学の計画を立てる。(1)</p> <p>・一里塚の見学で確かめる視点づくり ・まとめ方</p> <p>③万願寺一里塚を見学する。(2)</p> <p>④まとめることをおとして、万願寺一里塚が前の甲州街道の道筋にあったことや、万願寺に渡しがあったことを理解し、一里塚が復元された話を聞く。(1)</p> <p>・一里塚の発掘調査 ・旧甲州街道跡</p> <p>⑤日本橋から一里毎に置かれた甲州街道の一里塚の所在位置を地図で確認し、石碑建立や修復をした話しをもとに、万願寺一里塚が現在に残されている意味を考え記述する。(1)</p>	<p>東の地蔵から西の地蔵の間(約1km)</p> <p>地図(五街道)</p> <p>江戸城と徳川家康(平山八幡宮の話)</p> <p>大久保長安と八王子千人同心の話</p> <p>古地図(3の資料参照)</p> <p>昔話「日野っばらの妖怪」冊子「日野宿探検」</p> <p>古地図等</p> <p>万願寺一里塚写真</p> <p>古地図等</p> <p>日野市指定史跡「甲州街道万願寺一里塚」について</p> <p>日本橋起点</p> <p>一里塚の置かれた場所</p>
-------------	--	--

3. 参考資料

万願寺の一里塚は、慶長年間(1596~1615年)に甲州街道が開かれた時、日本橋から9里目にあたる万願寺の地に造られました。

当時の旅人はこの一里塚をみて距離を知り、休憩をとり、また、駄賃を支払いました。塚の頂上には松の木等が植えられているところもありますが、主として榎が多く植えられています。この榎は成長するほどに枝を広げ、夏になると旅人に日陰を提供し旅人にとっては骨休みとなる憩いの場でした。

(1) 何故、榎が植えられたのか

一里塚の仕事を命ぜられた大久保長安が、家康にどんな木を植えたらよいかと尋ねたところ、「よい木を植えよ」といわれたのを“よい”を“ええ”と聞き違えて「榎」にしたとか、また、家光が土井利勝に「街道の松並木とまぎらわしくないように、他(よ)の木を植えよ」と命じたのを、年とって耳が遠い利勝が「榎」と聞き違えたともいわれている。

(2) 江戸日本橋を基点にして甲州街道に一里塚の置かれた場所

基 点	江戸日本橋	(現在の所在地町名地番)
1 里	隼町	千代田区隼町 1
2	追分	新宿区新宿 3 丁目 1
3	笹塚	渋谷区笹塚 2 丁目 12
4	下高井戸 上北沢	杉並区下高井戸 1 丁目 41
5	仙川	調布市仙川町 3 丁目 2
6	小島	調布市小島町 1 丁目 17
7	常久	府中市清水ヶ丘 3 丁目 15
8	本宿	府中市日新町 1 丁目 10 NEC 府中事業所内
9	万願寺	日野市万願寺 2 丁目 38-5
10	日野台	日野市日野台 4 丁目 4
11	竹の鼻 以下略	八王子市新町 5

(3) 詩に読まれる一里塚

“門松は 冥土の旅の 一里塚 めでたくもあり めでたくもなし”

(4) 甲州街道について

徳川幕府が開かれると江戸は日本の中心となり、幕府は政治上、軍事上、経済上の目的から日本橋を基点にして五街道を整備しました。特に甲州街道は江戸から多摩地域を東西に通じ甲州、諏訪につなが重要な役割をもちました。(甲州街道沿いに見られる八坂神社、本陣、問屋場跡、東西の地蔵等からは説明をとおして甲州街道と日野宿の当時の役割が、日野宿写真館からは昔の宿場の様子が伝わってきます。)

旧戦国大名の上杉、武田氏等の家臣たちの動きを警戒した家康は、甲州方面から江戸への入口にあたる八王子に千人同心を軍事集団として組織し、甲府勤番公用の武士を置きます。

他の街道に比べるとほとんど使われなかったようですが、飯田藩、高島藩、高遠藩による参勤交代の街道として本陣・脇本陣が置かれ、上佐藤、下佐藤の両名主による街道の管理が行われていました。

また、甲州街道は都心から多摩地域を通りぬけています。近郊農村的性格をもった多摩地域においては生産した野菜や果物を江戸に送る街道でもあり、多摩川でとれた鮎を新鮮なままの姿で幕府に献上するための特別な街道でもありました。



万願寺の一里塚

参考文献 「日本の歴史 13 江戸開府」(中央公論社)

世界大百科辞典(平凡社)

広報ひの

「日野市の文化財 1994」日野市教育委員会

(吉野 美智子)

3. 関係機関との連携・協力の広がり・深まり

日野市郷土資料館

(1) 「ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語」の学校教育における活用について

〈はじめに〉

程久保村の藤蔵（とうぞう）と中野村の勝五郎の生まれ変わり物語は、日野市程久保と隣接する八王子市東中野を舞台に、江戸時代の後半の文化文政期（1804～1830）に起りました。平成27年（2015）は、主人公勝五郎の生誕二百年にあたりました。

人が生まれ変わるといふ伝承は、日本だけでなく世界各地に伝えられています。具体的な内容は次第に忘れられ、昔話や世間話という形で語り伝えられていることが多いです。しかし、「勝五郎生まれ変わり物語」は、当事者が実在し、生没年や住んでいた場所、墓所などもはっきりわかっているという点で、他の生まれ変わり伝承とは一線を画するものです。それは、勝五郎が語った内容を、当時の文人・役人・学者などが、同時期に記録し、その記録がずっと伝えられてきたということに由来しています。そして、その記録は、明治になると小泉八雲の手で、海外に紹介されていくのです。

本稿では、地元で伝わる生まれ変わり物語の概要と市民参加の「勝五郎生まれ変わり物語探求調査団」の活動を紹介しながら、物語の教材としての活用の可能性を探ってみたいと思います。

〈「勝五郎生まれ変わり物語」はこんなお話です〉

① 文政5年11月、中野村に住む8歳の勝五郎（小谷田姓）が、兄と姉に、自分の前世は、程久保村の藤蔵（須崎姓）で、6歳の時に疱瘡（ほうそう、天然痘のこと）で亡くなったと語りました。

② 勝五郎の話は、やがて父や母の知るところとなり、12月、勝五郎は生まれ変わりの顛末を以下のように、父母に詳しく語ったのです。



藤蔵が死んだとき、魂が身体から抜けだして家に帰ったが、誰も気づかなかった。→白い髭に黒い着物を着たおじいさんに導かれ、あの世に行った。→三年たったから生まれ変わるのだと言われて

中野村の柿の木のある家に連れて行かれた（民俗学では、柿の木は、あの世とこの世の境にある木だといわれている。）

→竈の陰に隠れていると、父母が相談をしていた。それは、家計を助けるために母が江戸へ奉公に行くというものだった。→藤蔵の魂は母の胎内に入り、文化12年10月10日に勝五郎として生まれた。

③ 勝五郎の生まれ変わりの話は、両親にとっては信じがたいものでしたが、母が江戸に奉公に行く相談をしていたという話は、両親以外の人には知らないことだったので、両親は勝五郎の語ることは本当かもしれないと思うようになりました。



程久保村のことを知っている人に聞いて見ると、藤蔵の家は実

在し、疱瘡で亡くなった子どもがいることもわかりました。勝五郎の生まれ変わりのうわさが広まり、「ほどくぼ小僧」というあだ名がついて見物に来る人もいたので、勝五郎はとても嫌がりました。

文政6年1月20日、勝五郎とおばあさんは程久保村の藤蔵の家を訪ねることにしました。勝五郎は行ったことがないはずの程久保村の事をよく知っていて、祖母を藤蔵の家に案内しました。

- ④ 藤蔵の家では、母しずと義父の半四郎（藤蔵の実父久兵衛は、藤蔵が5歳の時に死去）がいて、勝五郎が藤蔵によく似ているとあって喜びました。勝五郎は、初めてきたはずの家の中の事もよく知っていて、向かいの「たばこや」（屋号）の木は以前はなかったなどといって、みんなを驚かせました（藤蔵の屋敷の敷地は、今も同じ場所にあります一家は建て替えられている）。藤蔵と勝五郎の家は、その後親類のように行き来するようになり、勝五郎は藤蔵の実父久兵衛（藤五郎）の墓参りもしました。



- ⑤ 2月のある日、江戸から池田冠山（いけだかんざん）という大名（鳥取藩の支藩の藩主、当時は隠居）が、勝五郎の家を訪ねて来て、生まれ変わりの話を聞かせてほしいと頼みました。勝五郎は気おくれして話すことが出来なかったので、祖母つやが代わりに話をしました。3月、冠山は聞いた話を『勝五郎再生前生話（かつごろうさいせいぜんしょうばなし）』としてまとめ、松浦静山（まつらせいざん）や泉岳寺の貞鈞（ていきん）大和尚などの、文人仲間に見せました。冠山の著作は次第に多くの人の目に触れることとなり、勝五郎の生まれ変わりの噂は江戸中に広まりました。冠山が、中野村まで生まれ変わりの話を聞きに行った背景には、文政5年10月、藤蔵と同じ6歳で疱瘡のために亡くなった末娘「露姫」の存在がありました。



- ⑥ 4月、中野村の領主で旗本の多門傳八郎（おかどでんはちろう）が、父親の源蔵と勝五郎親子を江戸へ呼び出しました。知行所での騒ぎが大きくなって、そのままにはしておくことが出来なかったからでした。多門傳八郎はその調書を上司である御書院番頭佐藤美濃守に提出しました。
- ⑦ 多門傳八郎の届書の写しは、すぐに多くの文人たちが入手することとなり、国学者の平田篤胤（ひらたあつたね）のところへも届けられました。篤胤は、友人の屋代弘賢の勧めもあって、多門の用人谷孫兵衛に、勝五郎への面会を申し入れました。そして、4月22日に、源蔵と共に篤胤の学舎、気吹舎（いぶきのや）へ来た勝五郎から直接話を聞きました。篤胤が、勝五郎の話を聞いたのは、4月22・23・25日の3日間でした。
- ⑧ 6月、篤胤は、勝五郎の話に自身の考察を加えて『勝五郎再生記聞』をまとめ、7月22日からの上洛に持参、光格上皇と皇太后へお見せしました。御所では、女房たちに大評判となったそうです。
- ⑨ 文政8年8月26日、勝五郎は気吹舎の門人になり、およそ1年ほど気吹舎にいたといわれていますが、その後の消息ははっきりしません。
- ⑩ 勝五郎は、中野村に帰ってきてからは、普通の人と変わらない生活をし、農業の傍ら家業で

ある目籠の仲買を行ない、裕福な生活をしていたと伝えられています。明治2年（1869）12月4日、55歳で亡くなりました。

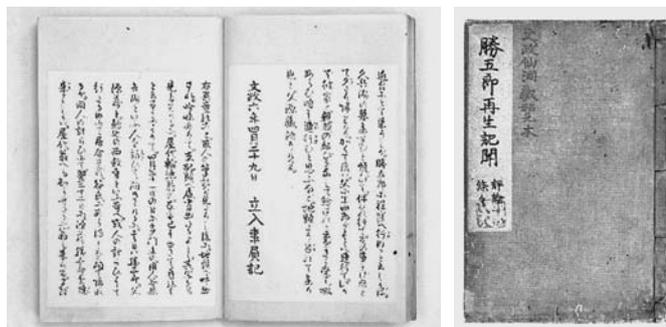
- ① 明治30年に、小泉八雲が、随想集『仏の島の落穂』のなかに、「勝五郎の転生」を書いたので、勝五郎の生まれ変わりは、海外の人にも認知される事例となりました。

〈記録された生まれ変わり物語〉

以上のように、「勝五郎生まれ変わり物語」は、当時の一流の文人・学者によって記録された生まれ変わり物語です。

文人大名として名高い池田冠山は、最も早く勝五郎の家を訪ねて話を聞きましたが、勝五郎ではなく祖母のつやが話したことを、話し言葉のまま書き留めています。

中野村領主の多門傳八郎は、職務上の取調べを行なって、調書を上司に提出しています。調書なので、訊いたことを正確に書き取っているはずですが、勝五郎本人というよりは、父源蔵が語った内容と思われます。調書の写しは、すぐに関係者の手に渡って広まっていったようですが、原本の所在は不明で、『勝五郎再生記聞』などに写されたもので内容を知ることが出来ます。幕府の役人が生まれ変わりの顛末を取り調べるといのは、めったにないことなのではないかと思われます。傳八郎自身も「わざわざ取り調べるほどの事かどうか分からないが、といてここまで騒ぎが大きくなるとそのままにもしておけない」という意味のことを記しています。



平田篤胤自筆の『勝五郎再生記聞』（国立歴史民俗博物館所蔵）

一方で、平田篤胤の『勝五郎再生記聞』は、主に勝五郎本人から聞いたことを記録しています。しかし、篤胤自身が書いているように、勝五郎が語ったことをそのまま記したのではなく、たどたどしく語ったことを、友人の国学者伴信友や篤胤が整理をしてまとめたものです。「再生記聞」では、産土神（うぶすながみ）の存在が強調されているなど、3つの記録には、それぞれの立場の違いによる見解の相違はありますが、おおよその事実関係は矛盾していません。いずれも、勝五郎が生まれ変わりを語ってから、3～5か月後の聞き取り調査の記録です。

〈海外への展開と前世の記憶を持つ子どもの研究〉

ラフカディオ・ハーン（1850—1904）は、明治23年（1890）4月、40歳の時にアメリカから来日、日本の文化、伝承・昔話などに興味を持ち、海外に紹介しました。松江・熊本。明治30年9月、八雲はアメリカとイギリスで随想集『仏の島の落穂』を刊行、この中の一編として「勝五郎の転生（Rebirth of Katsugoro）」を執筆しました。

八雲が執筆の原典したのは、『珍説集記』という江戸時代の書物の中にあつた「文政六未年生替り物語」ですが、これは池田冠山の『勝五郎再生前生活』を写したものでした。

八雲は「勝五郎の転生」のなかで、この資料を読むことで、前世の記憶の



小泉八雲『仏の島の落穂』アメリカで出版された初版本の表紙

可能性を知ることだけでなく、日本人が前世と再生について抱いているごく普通の観念を知ることが出来ると述べています。生まれ変わりの真偽を検証することよりも、これに寄せる日本人の心情を理解することが大切であり、八雲もその心情に共感していたことがわかります

20世紀後半になって、八雲の記述に興味を示したアメリカの学者がいました。イアン・スティーブンソン博士です。彼は、1967年に、アメリカバージニア大学医学部知覚研究室に、前世の記憶を持つ子どもの事例を収集・研究する施設を開設しました。今では40か国以上、2,600を越えるデータを収集・研究しています。

イアン・スティーブンソン博士（1918－2007）が、前世の記憶を持つ子どもたちの研究を科学的に行おうと志したのは、小泉八雲の「勝五郎の転生」を読んだことがきっかけでした。前世の記憶を語る少年の、もっとも古くて正確な記録として評価したのです。

このように、八雲が海外に勝五郎の生まれ変わりを紹介したことで、江戸時代に多摩地域で起こった生まれ変わり物語は、前世の記憶を持つ少年の事例として、世界中の研究者の目に触れることとなったのです。

〈勝五郎生まれ変わり物語探求調査団の活動〉

明治以降現在まで、「勝五郎生まれ変わり物語」に興味や関心を持つ人たちは、歴史・民俗学、宗教学・哲学など様々な分野の研究者、作家、児童文学者など多岐にわたっています。柳田國夫『先祖の話』、折口信夫『平田国学の伝統』、井上円了『妖怪学講義』など、現在までに見つけることができた、勝五郎の生まれ変わりについて言及している著作・論文は60以上あります。

ただし、これらの論文類は、大方がその一部で勝五郎の生まれ変わりに触れているもので、郷土史家下田九一氏が『日野の歴史と文化』2～4（昭和44～45年）に連載した「史料から見た勝五郎とその周辺」以外には、正面から勝五郎の生まれ変わりに取り組んだものはありません。

このような中で、平成18年7月に日野市郷土資料館の事業として、市民参加の調査団「勝五郎生まれ変わり物語探求調査団」が発足しました。地元に伝わる生まれ変わり伝承の、調査・研究、啓蒙・普及を目的とした調査団です。最初30人ほどだったメンバーは、今では60人になりました。

子孫や関係者の他研究者も参加してくれている中で行なった調査・研究は予想外の成果があり、多くの資料や情報を見つけることが出来ました。調査団は、平成27年で結成10年をむかえ、平成27年9月、これまでの調査成果をまとめた『ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語調査報告書』（A4判150ページ）を刊行しました。詳細は、同書を参照していただきたいと思いますが、調査団では、調査・研究のほか、世界に知られる生まれ変わり物語を、市民の皆さんに知っていただくための、啓蒙・普及事業にも力を入れています。

毎年5月に公開講演会、7月には高幡不動尊と共催で「夏休み子ども講座」（平成20年～）、10月10日の勝五郎の誕生日の前後には「藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日イベント」（平成21年～）を開催し、「勝五郎生まれ変わり物語」の普及に努めています。要請があれば随時出張展示・出張授業なども行なっています。今まで取り組んだものには、日野市や八王子市内の地区センター祭りなどでの出張展示・出張講座、中央大学・明星大学などでのホームカミングデーや学園祭での出張展示・ゲスト講師としての講義などがあります。



平成28年2月1日～3月11日には、勝五郎墓所のある永林寺に近い、八王子市の柚木事務所での出張展示が予定されています。

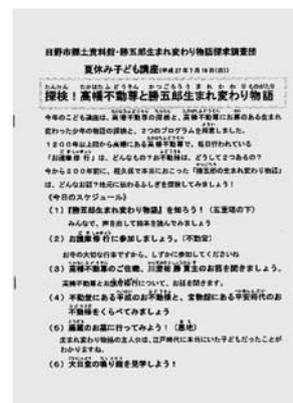
〈夏休み子ども講座の取り組み〉

勝五郎生まれ変わり物語を、地元日野市で長く伝承していってもらうためには、まず子どもたちに生まれ変わり物語を知ってもらうことが大切です。そこで、平成20年から「夏休み子ども講座」を開催しています。小学生とその父兄が対象ですが、付添いがあれば、参加の小学生の弟・妹にあたる幼児の参加も受け入れています。平成27年7月で8回の講座を開催しました。

平成21年からは、藤蔵墓所のある高幡不動尊のご協力を得て、会場を高幡不動尊とし、紙芝居や絵本の群読などによる物語の紹介、藤蔵墓所の見学、程久保に足を延ばしてのゆかりの場所の探訪、子孫のお話、などのプログラムを行なっています。地図やワークシートも用意し、夏休みの自由研究にすることも出来るように工夫しています。また、せっかく高幡不動尊に集まってもらうので、高幡不動尊の見学、とくにお護摩修行への参加と貫主様の講話、大日堂の「鳴龍」体験などをしてもらっています。

お護摩修行は宗教行事ではありますが、平安時代から、日野の地で1日も欠かすことなく行われている修行ですので、生きた文化財ととらえることも出来ます。参加は強制ではなく、お護摩に参加したくない小学生には別のプログラム（宝物殿の見学）も用意していますが、ほとんどの児童は、参加を希望してくれます。子どもたちは、30分ほどのお護摩修行の間、特に強く働きかけなくてもきちんと正座をして、静かに参加することが出来ますし、参加してよかったという感想が多く聞かれます。真近で見上げる大きな不動明王像や、堂内での火を焚く様子など、日常にはない体験のなかで、何かを感じ取ってくれるのではないのでしょうか。

最初は少なかった参加者も、最近では父兄も含めると30～40人集まってくれるようになりました。また3年前からは、1人で来るのが難しい、高幡不動から離れた地区の小学生を対象に、マイクロバスでの送迎を実施しています。毎年2校ずつ案内をし、希望者を募集しています。父兄や幼児もちろん歓迎です。いままでに対象とした学校は、日野第一・日野第二（豊田）・仲田・平山・滝合・旭が丘小学校の6校です。



夏休み子ども講座（夏休み最初の日曜日午前9時～12時30分）のチラシとワークシート



不動堂でのお護摩体験 厳粛な場に臨むと、子どもたちはいわれなくても、きちんとした態度を取ることが出来ます。



大日堂での鳴龍体験 龍の真下に立って手を打つと、龍が鳴く声が聞こえます。願い事が叶うと説明するので、子どもたちの祈りは真剣です。

これらの学校には、事前学習として「ひのっち」でのお話会を開催させていただいています。立体紙芝居・ジオラマなどの展示や大型紙芝居を使ってのお話会により、勝五郎の生まれ変わり物語のことを知ってもらい、子ども講座への参加を呼び掛けています。

子ども講座だけではなく、勝五郎生まれ変わり物語に興味を持って下さった先生方が、授業のなかで取り組んで下さることもあり、資料や写真、紙芝居・DVD（11分）などの貸出、調査団メンバーの出張も行なっています。最近では、全校朝礼で取り上げて下さる校長先生もいて、DVDを見ていただいて、少しお話をさせていただくということも行なっています。



「ひのっち」でのお話会
30分ほどの時間を貰って行ないます。事前にパートナーさんと打ち合わせをし、お便りにも予告を出してもらいます。
大型の紙芝居、立体紙芝居、ジオラマなどを持っていきます。
おおむね静かに聞いてくれますが、その後の反応は学校によって、様々です。
いい反応が返ってくると、うれしいのですが…。



立体紙芝居 全部で15場面
あります。
子どもたちには人気があり
ます。



ジオラマ 程久保村から中野村まで、物語の地域を立体的に表しています。調査団のメンバーの手造りです。ジオラマの中に訪問した学校が含まれていると俄然盛り上がります。

〈取り組みへの課題—子供たちに伝えたいことは何か〉

子ども向け講座を開催する中で、子どもたちに伝えたいことは何かということを明確にしておくことは、とても大切なことだと思います。まずは、『学校の怪談』『生まれ変わりレストラン』（怪談レストランシリーズ）など、子どもたちに人気の児童書にも掲載されていて、外国の人も知っている有名な生まれ変わり物語の舞台が日野であることを知ってもらうというのが、第一の目的なのですが、知ってもらうだけでいいのか、それからどうするのかということが、これから考えていかなければならない課題です。

低学年の場合 ひのっちはもちろんですが、子ども講座への参加者は、どちらかといえば低学年の児童が多いのが現状です。子どもたちはこの話を聞くと、まず自分たちとほぼ同年齢の子どもが病気で死んでしまうということに驚きを示します。子どもが病気で死ぬということは、あ

まり身近にあることではないからでしょうか。生まれ変わりなんてそんなことあるわけがないという反応は少ないです。

「生まれ変わるって本当にあると思う？」と聞いて見ると、「絵本に本当にあったお話って書いてあるから、本当なんでしょう？」という、とても素直な答えが返ってきたこともありました。

個人差もあるので一概には言えませんが、低学年の子どもたちでは、お話を知ってもらうということが精いっぱい、なかなかそれ以上に踏み込んだことを伝えるのは難しいのかもしれません。

また、程久保や高幡不動尊に近い地域の子どもたちと、日常生活のなかにこれらの地域が入っていない地域の子どもたちでは、反応にかなりの差が感じられます。地元の物語としてとらえられるか、知らない場所のお話ととらえるかで、興味の持ち方はかなり違ってきます。

身近な物語としてとらえてくれた子どもたちは、物語の世界の内側にも関心を示してくれる場合が多いです。市内の子どもたちみんなに、身近な物語としてとらえてもらうためには、もう少し工夫が必要なのかもしれません。

高学年や中学生の場合 以前、5年生の児童に、出張授業（国語の時間）で勝五郎の話をしたときには、低学年の子どもたちとは少し違う反応を示してくれました。あまり興味を示してくれない子どもたちもいる中で、今と昔の子どもの違い、子どもを亡くした親の気持ち、もし自分が前世の記憶を持っていたらどうするだろうなど、勝五郎の物語を糸口に、様々なことを考えてくれる児童が、少なからずいたのです。子ども講座に参加してくれる高学年の子どもたちも、同様です。中学生では、今の人と当時の人では、死にたいする考え方はどのように違うのかというような質問も出てきます。内容に踏み込んだことを伝えていくのは、やはり小学校も高学年からということになるのかもしれません。

子ども講座に参加してくれた6年生の男子児童が、後日家族を案内して藤蔵の墓所に来てくれたということがあって、そういう反応があると、調査団の人たちもやりがいを感じて、頑張ろうという意欲が湧いてきます。

先生たちとの連携 調査団は基本的に素人の集まりなので、すべての活動は試行錯誤のなかで行われています。私たちは、勝五郎の物語を通して、生命の存在と、それをとても大切に考えて生きている人たちの気持ちを知ってもらえたらと思っているのですが、正直、何をどのようにということに、確信も自信もあるわけではありません。もし、学校の現場の先生方と連携することが出来て、この物語を伝えていくことの意味を一緒に考えていくことが出来たら、より意義深い活動を見出していくことが出来るのかもしれないと思います。

是非、現場の先生方にも、「勝五郎生まれ変わり物語」の教材としての可能性に興味を持っていただき、地域に残るこのような事例を、教材としてどのように活用すればいいのか、アドバイスをいただきながら、より良いあり方を工夫していきたいと考えています。



子どもリーフレット
ひのっや出張授業などで
配布しています。

日野市立図書館

(2) 日野市立図書館開設50周年を迎えて、有山^{たかし}崧とその時代を振り返る

1. はじめに

平成27（2015）年、日野市立図書館は開設50周年を迎えました。

これを記念して、11月21日に「開設50周年記念式典・講演会」をひの煉瓦ホールで開催しました。講演会には作家の浅田次郎氏をお迎えし、「読むこと 書くこと」をテーマに、特に本を読むことの大切さをお話いただきました。

また、同28日には「図書館まつり」をイオンホールで開催しました。市民による朗読劇やコンサートのほか、ビブリオバトルなども行われ、大勢の市民に会場いただきました。

「くらしの中に図書館を」を合言葉に、移動図書館車1台からスタートした日野市立図書館は50年を経た現在、中央図書館と6つの分館、1台の移動図書館でサービスを行っています。これからも市民の役に立ち、愛される図書館でありたいと思っています。

日野市立図書館50年のあゆみについては、指導事例第7集にまとめられているので、そちらをご参照ください。本稿では、日野市立図書館開設が当時の公共図書館のモデルとなったことと、生みの親である有山^{たかし}崧についてご紹介します。

2. 有山崧と「中小レポート」



有山崧は、明治44（1911）年、日野町（現日野市）に誕生しました。有山家は戦前の大地主で、崧の父、祖父ともに二代続けて日野町長をつとめた家でした。有山は、昭和23（1948）年より日本図書館協会の事務局長を務めていましたが、昭和35（1960）年、彼の発案で中小公立図書館の運営基準を作ろうということになり、のちに日野市立図書館初代館長となる前川恒雄を事務長格に加えて委員会が設置されました。

昭和38（1963）年、『中小都市における公共図書館の運営』（中小レポート）が発刊されます。これには「中小公共図書館こそ公共図書館の全てである」と書かれ、閲覧中心のサービスではなく貸出し中心のサービスをするべきだ、とありました。

これは当時の図書館としては革命的な宣言でした。このころの図書館は閉架式の閲覧中心の図書館で、一般の人には近寄りやすく、専ら学生の勉強部屋として使われていました。レポートには、当然批判や反論もありました。そこで、誰かが「中小レポート」の正しさを実際に証明しなければならなかったのです。

3. 日野市立図書館の開設

昭和39（1964）年、有山を議長とする社会教育委員会は日野市に図書館を設置するよう答申し、前川を特別委員会委員として招きました。翌40（1965）年、日野市立図書館設置条例が議決され、初代館長に前川が就任しました。

前川は、貸出し中心で学生の勉強部屋でない図書館を作りたい、市の全域にサービス網をつくりたいとの思いから、移動図書館でのスタートを提案し、有山はそれを受け入れました。へたに建物を作ってしまうと、一つあれば十分となり、今までの図書館と同じことになるという前川の

強い信念でもありました。

また、日本の公共図書館が発展しない最たる理由は図書費の少なさだと嘆いていた前川は、開設に当たって図書費を500万円要求します。そのころ、そんな図書費をもった市立図書館は政令指定都市以外にはほとんどなく、200万円でも多いと思われていました。これを認めた古谷市長（当時）の決断が、日野市立図書館の将来を決定しました。

昭和40（1965）年9月21日、「日野を回るから」ひまわり号と命名された移動図書館車の巡回がスタートしました。たちまちひまわり号は市民に受け入れられ、駐車場数も貸出冊数もうなぎ上りに増えていきました。当時の図書館で個人貸出しが1日100冊を越えるという館が少ない時代、平均573冊に達した週もありました。

学校への配本も、昭和41年には開始し、子供たちや先生に利用されました。

ひまわり号に積載できる本の数には限りがあるため、当時は珍しかった予約（リクエスト）制度も取り入れました。

“草の根わけても本を捜しだす”をモットーに、徹底して市民の資料要求に応えつづけました。

日野の活動を見て、多摩でも館の方向をかえて後に続く図書館が生まれました。府中や町田がその例で、利用が急上昇し、図書費も何倍かに増えていきました。このことが日野の方向の正しさを証明してくれました。

やがて市民の要望が後押しとなり、続々と分館が、昭和48（1973）年には中央図書館が開館しました。これで日野市立図書館のサービス網の初期基盤が形成されました。



4. 有山市長として

移動図書館車のサービス開始に向けて急ピッチで作業が進められていた昭和40（1965）年8月、有山は日野市長に当選しました。家柄、学識、人柄いずれも申し分なく、推薦されると断わるわけにはいきませんでした。

市長在任中、有山は公平な性格から、図書館についてあれこれ指図することはありませんでした。ただ2つだけ、図書館発足の翌年に1000万円という破格の図書費を認めたこと、多摩平団地の子どもに「動かない図書館が欲しい」と言われた話を聞いて、「図書館を建てる余裕はないので、古いバスでも使ったらどうか」と助言したことだけだったと、前川は語っています。後者については、古い都電の車両を使った電車図書館の開館につながりました。

戦後の公共図書館の発展の礎を築いた有山は、市長在任中の昭和44年3月16日、肝臓がんで亡くなりました。57歳でした。

参考文献

- ・「中小都市における公共図書館の運営」 日本図書館協会 昭和38年
- ・「移動図書館ひまわり号」 前川恒雄／著 筑摩書房 昭和63年
- ・「図書館の誕生」 関千枝子／著 日本図書館協会 昭和61年
- ・「有山崧の視点から、いま図書館を問う」有山崧生誕100周年記念集会実行委員会 平成24年
(高橋寿恵)

4. 郷土教育推進のための普及・啓発

(1) 地域を知る指導者の育成

～四谷・東光寺地区の教材化～

①フィールドワーク

地域には、これまでの歴史を感じさせる遺物や暮らしと結びつく自然が多く残っている。多摩川と浅川に挟まれた日野台地、この土地を有効に活用してきた先人の歴史を学ぶことは極めて大切である。これらの素材は身近なところにあるため、改めて見つめることは少ないが、見つめる中でその意味を深く感じとることができる。教師自身ですら、日頃感じていないことが多いものである。

フィールドワークで大切なことは、地域に対し関心と愛着を持つことであり、そのことが出発点となって多くの課題が見つげ出される。本委員会では例年夏季休業日を利用してこのフィールドワークを実施しており、この経験を通し参加者は日野の素晴らしさを感じている。この企画では、日野市教育委員会と郷土教育推進研究委員会の共同事業として、本委員会のメンバーが講師となって行っている。今年度は「四谷・東光寺地区」を取り上げて7月31日にフィールドワークを実施した。

ねらいは次の3点になる。

- ・四谷・東光寺地区を調査し、その教材化の視点・方法を探る。
- ・郷土資料の収集と活用の方法、郷土教育・授業実践のあり方を学ぶ。
- ・図書館、博物館の活用方法と連携のあり方を学ぶ。

日野煉瓦と日野用水

ここは言わば、戦国時代と近代が交差するところ、昔の甲武鉄道の橋台の下を日野用水が流れている。日野宿の発展は日野用水なくしてはありえず、永禄10（1567）年、佐藤隼人が戦国大名北条氏照より罪人を借り受けて開削させ、その後日野三千石の基盤が作られた。

右写真は用水の流れている様子を撮ったものであるが、コンクリと煉瓦の部分は現在の中央線の橋台である。この橋台は明治22（1889）年の甲武



鉄道の八王子までの開通以来、関東大震災、第二次世界大戦の戦火をくぐりぬけ、今日まで日野の近代を支えてきたものである。この煉瓦は甲武鉄道の開通を促進させるために、日野宿の土淵英、高木吉造、河野清助は煉瓦製造に専門の技術を持つ横田金左衛を横浜より招聘し「日野煉瓦工場」を設立した。

日野市史編纂委員会「日野市史史料集 近代3産業・経済編

多摩のあゆみ No.159 p.22～25 日野レンガ見て歩き帖「現役」の近代文化遺産を訪ねて

竹間加賀入道塚



これは、日野用水が引かれて間もない頃に、北条氏照の家臣であった竹間加賀入道の墓であった言われているものである。

竹間加賀入道は天正18（1590）年2月に自害したと伝えられ、6月に八王子城が落城する前に鉢形城から逃げ帰ったと言われている。この石塔は子孫の方が昭和15（1940）年に自然石でその跡に石碑を建てたものであるという。

天正14（1586）年、武器にもなる竹木を切ってはならない。一本であっても切る者があれば、周

りの者も含めて磔つけにすべきであると北条氏照が禁制を出した頃である。

平成6年 日野市史 通史編二

四谷地蔵

これは四谷（天野、加藤、小島、宮原）の中心に建てられた地蔵尊2基、庚申塔2基である。

これはこの辺りが四谷の中心であったことを示している。地蔵とは地獄の責め苦しめからの救済を求める対象になりました。

庚申塔については、人の中に宿っている3つの霊、魂（こん）魄（はく）三尸（さんし）の中で、人が亡くなると魂は天へ魄は地下に入る。残りの三尸が悪さをし、天帝に日頃の行状を報告し、これによって寿命は短くなると言われている。これを防ぐために徹夜をする所として庚申塔はある。



日野宮権現

日野本郷の日野宮権現社は、武蔵七党の勇、西党の祖、同村を開いたと伝えられる日奉氏、日奉宗頼（国司として政務を勤めた）・宗忠を中心に祀ったものであり、その子孫がこの地に土着したといわれる。平安（890）年代にはこの地に住み着き、東光寺に居をかまえていたという。

日野市史通史編 二（下）

日野宮神社仏像

この仏像は、もともと村の中央にあった阿弥陀堂に安置されていた。1993（平成3）年、この土地が所有者に返され、自治会館が壊されることになったため、日野宮神社に移され現在に至っている。

修理のためこの仏像の首を抜いたところ、願文と勸進帳の二通の文書が出てきた。これには70名の名前が書かれた寄進状が入っていて1517（永正14）年造られたと記載されていた。

現在は阿弥陀如来立像と体内文書が市の指定の文化財になっている。

左 木造阿弥陀如来立像（室町時代・市有形文化財） 中央 木造阿弥陀如来坐像（江戸時代）
右 木造立像（江戸時代・市有形民俗文化財）伝虚空蔵菩薩（衣の袖がウナギに似ている）



日野用水下堰



これは日野用水下堰である。日野用水は、1567（永禄10）年、北条氏照より借り受けた罪人によって切り開かれた。この東光寺地区には山下堀、上堰、下堰が網の目のように流れ、日野が「日野三千石」と呼ばれるようになった礎を築いた。

現在は小動物や昆虫の棲家となっており、子供たちの遊びの場であると共に、日野の豊かな自然を今に残す大切な場所である。

成就院

成就院は、日奉氏が居館の鬼門の方向に建てたと言われている。しかし、東光寺、成就院とともに1558～70（永禄）年間に廃絶。

1588（天正16）年、僧永海が成就院を中興建立。安産薬師で有名な薬師堂も、日奉氏居館の鬼門方向に建てられた。「夢枕の枝栗を供えよ。しからば出産は易からん」という言い伝えがある。

また、ここには日光・月光を脇侍に配した薬師三尊とこれを守る見事な十二神将がある。

また、壁には眼病の平癒を願った絵馬が飾られていた。



日野大橋の碑・日野大坂の碑

右、大橋の碑は、東光寺道が日野用水上堰堀を渡る場所に架けられた石橋（現存せず）の架橋を記念して1846（弘化3）年に建立されたものである。

碑文には、1786（天明6）年に土橋から板橋にしたが、1830～40（天保）年間に崩落したこと、このため村人が協力して1808（弘化3）年に伊豆石を用いて架橋したことがしるされ、橋の変遷がわかるものとして市史跡に指定された。

また、左側の碑は、大正時代に建てられた「東光寺大坂の碑」である。碑文には、八王子に向けて台地を登る坂道が険しかったため、崖を開削し、排水溝を設けたことなどが記されている。



神明社



創建年代不詳、西党の支流、立川氏がこの地に土着、この場所に「伊勢神宮」を勧進したと伝えられている。この急な坂を登ったところに神明社がある。昔この地域は谷地川の氾濫により川の流が大きく変わり、日野と八王子の間の領地争いが頻繁に行われた。

このため、「暁の一番鳥が鳴いたとき、両方の村の馬を競争させ、勝った方の村の言い分を聞くことにする。」との神明様のお告げがあった。

これを教材に取り上げ、子供たちに考えさせ

る学習をさせることも良いのではないか。

七ツ塚古墳

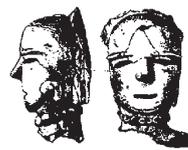
この古墳は古く女性埴輪が出土したことで有名である。

1900（明治33）年、東京帝国大学から編纂発行された「古墳横穴及同時代遺物発見地名表」がある。

昭和2年鳥居龍蔵氏により七ツ塚で採集された形象埴輪片が紹介されている。

愛好家 立川民蔵氏により円筒埴輪が採集された。1954（昭和29）年日本史談会 古谷剛次郎氏により発掘される。

現在の1号墳には遺物は残っていない。



女性埴輪



水車堀公園



かつて、この東光寺地区は豊かな田園地帯であり、用水路が網の目のように流れていた。現在、この地域にも水車は見られなくなったが、昔を偲ぶために公園に水車を設置してその役割がわかるようにしている。

この水車では水の力で粉を引き、何ヵ所にもこうした場所があったという。今では、高幡地域の向島用水に残っているだけである。

よそう森

この地域は日野三千石を支える重要な地域であった。このため、水田の脇にある小高い丘の上からその年その年の取れ高を占ったという。現在は、これになぞらえ「よそう森公園」という名で往事を偲ばせてくれる公園がある。



② 研修会

前半では、幼稚園、小学校低学年の歌や踊りを交えた学習活動が発表され、次の発表では多摩平地域を活用した学習事例の発表が行われた。多くの参加者からは、具体的にどのように授業を展開したらよいか分かりやすい発表であったとの声が聞かれた。



また、小杉顧問よりは、恒例になっている地図を活用した授業の仕方の指導を受けた。現在の様子との地図を対比させ、地名や施設、土地利用に注目させ、理由をじっくり考えさせる授業が提案された。昔の地図からは一面に桑畑が広がり、あちこちに水車が存在するかつてのどかな農村の姿がうかがわれた。この指導は例年具体的に郷土教育のイメージが持てると好評である。

こうした研修を通して、教師が様々な視点から地域の素材に関心を持ち、教材化を進めていくことが大切である。また、地域の昔のことばかり扱うのではなく、現在の地域の特色を取り上げることも重要である。東光寺地区は梨やブルーベリーの産地として、また東光寺大根が収穫される場所として、現在でも農業の盛んなところである。特に、「七ツ塚ファーマーズセンター」が設置されていることもあるので、地域の産業に目を向けさせ、これをもとに本市の農業の振興を図る大切さを参加者に説明してもらった。

「七ツ塚ファーマーズセンター」周辺の東光寺上地区には、農と住が共生できるように、計画的なまちづくりが進められており、この地区で収穫された野菜は、市内の直販所への出荷や小・中学校への納品を行っている。大根、トマトをはじめとする野菜の生産が大部分を占めており、たくあん大根である東光寺だいこんは、日野の地名がついた貴重な品種として有名である。2012（平成24）年にオープンした「七ツ塚ファーマーズセンター」は、日野の農業の情報発信をする拠点である。農業者と市民の交流、農産物の販売、調理体験等、日野農業を学ぶ場として極めて大切なところである。

東京都は、都市農業の振興と都市農地の保全のために、「農業・農地を活かしたまちづくりガイドライン」（平成20年3月）を策定しました。日野市は、このガイドラインをもとに、平成21年度に地元の農家・自治会、農業関係者、市民、行政からなる「日野東光寺地区農あるまちづくり協議会」を立ち上げ、「日野市東光寺地区都市と農業が共生するまちづくりプラン」を平成22年3月に策定し、23～24年度にかけて「日野市七ツ塚ファーマーズセンター」を建設、平成24年10月にオープンしました。施設内の物販店舗「農あるまち日野みのり処（ところ）」では、日野産の新鮮な農産物を中心に、加工品や新選組ゆかりの地（会津若松市など）などの特産品を販売しています。また、施設内では、日野産農産物を使った料理教室をはじめ様々な食農イベントが行われています。ファーマーズセンターは、周辺農地での農業体験や援農市民養成のための「農の学校」の拠点ともなっています。平成25年には、東光寺上地区周辺整備事業として、案内板、休憩施設、散策コース、光害阻止LED照明の設置、パンフレットの作成などをおこなっています。

まとめ

今回のフィールドワークでは日野用水を遡ったが、そこには、日野の古い歴史と豊かな自然を感じさせるものが多くあった。

その第一は日奉氏の存在であり平安初期から鎌倉時代に至るまでの400年間、東光寺地域を本拠としていたという。（『武蔵七党系図』『新編武蔵風土記』『武蔵名勝図』）

日奉氏は、西党として多くの同族によって威勢を振るったが、そのほとんどは1215（建保3）年、和田義盛の乱で滅亡、わずかに残った立川、平山一族だけが中世まで存続したという。（『多摩の古城址』）

また、この地域には古い遺跡のみならず、「七ツ塚ファーマーズセンター」に代表される農業振興施設があることが印象的であった。

東光寺は古くに廃寺となって地名として残るだけになり、居館場所は不明である。廃寺の時期もわからず「北条氏照印判状」により戦国時代までは存在していたことが確実である。（『日本城郭体系』）これからも新しいものと古いものが調和するまちとしてこの四谷・東光寺地区が発展していってくれることを願っている。

(2) 校長の役割

① 校長講話 「仲田小周辺の歴史探訪」

江戸時代の日野市は、今のように大きな町ではありませんでした。日野駅周辺の日野本郷を中心に、NHKの大河ドラマでも有名になった新選組副長の土方歳三が生まれ育った石田村、モノレールの駅名にもなっている万願寺村、川辺堀之内村など、19の小さな村を合わせて、今の日野市となっています。多摩川や浅川、多くの湧き水に恵まれたおかげで、水田は多く、昔から比較的裕福な村がたくさんありました。

日野の町から江戸の町までは、約40kmという距離にあり、歩いて1日で行ける場所にあったことから、江戸の町とも大きく結びついていました。日野市周辺の多摩地域は、各地の大名に支配されることなく、徳川幕府によって直接おさめられていました。日野の人々は徳川将軍に何かあったら、自分たちが守らねば、と強く感じていました。

徳川幕府は、江戸を外からの敵から守るため、大きな川には橋をかけずに、「渡し」によって川を渡らせました。その「渡し」の仕事を幕府は日野の人たちに任せていました。「日野の渡し」は、学校の近くの立日橋付近にありました。「渡し」は、人と馬の料金がそれぞれ決まっていたことが、お坊さんとお侍さんは無料で川を渡ることができました。

初めころは、3月から10月までは船で渡し、その他の月は、多摩川に土の橋が架けられていましたが、後に、一年中船で渡ることとなりました。大正15年（1926年）に、現在の日野橋ができるまでの240年間、「渡し」は使われ続けました。みなさんが今も渡っている日野橋は、実は今から90年前にできたものです。甲州道中（今の甲州街道）を使って、江戸や山梨へ行こうとしたら、多摩川を必ず渡らなくてははいけなから、「渡し」は大事な仕事でした。今は、電車や自動車があるから、1日でいろいろな場所に行くことができますが、昔はみんな歩きでしたから、目的地まで行くには何日もかかりました。

さらに日野は、泊まる場所としての宿場町でもありました。徳川幕府は地方の大名を、参勤交代と言って定期的に江戸に住まわせていましたが、その行き来のため、甲州街道も大名行列で使われていました。その時に、大名が宿泊する本陣が、みなさんもよく知っている日野図書館の前にある「日野宿本陣」として今も残っています。その本陣が置かれた佐藤家の彦五郎さんの道場には、後の新選組局長の近藤勇や沖田総司（後の一番隊隊長）が、佐藤道場の門下生であった土方歳三（後の副長）やとんがらし地蔵の近くで生まれ育った井上源三郎（後の六番隊隊長）と共に稽古に励んでいました。

ここから先の新選組についての詳しいお話は、「日野市立新選組のふるさと歴史館」や「井上源三郎資料館」へ行って、調べてみてください。歴史と伝統のある日野市の魅力について、これからも、ぜひ学んでいってください。

※参考文献：日野市教育委員会資料・日野市観光協会資料・新訂江戸名所図会3（ちくま学芸文庫）

（仲田小 池田 泰章）



② 校長講話 「第18回新選組まつり」

昨日行われた、「新選組まつり」の新選組隊士パレードでは、一小から「春日隊」隊士として、18名の参加がありました。

「春日隊」は今から、147年前に、日野宿の名主である佐藤彦五郎が組織したと言われていました。私たちの学校ができるほんの数年前の出来事です。新選組が京都での戦いに敗れて、江戸に戻った後、甲陽鎮撫（こうようちんぶ）隊として、西から迫る新政府軍との戦いに甲府城に向かう際に、日野佐藤家にて休憩し、急いで、農民に呼びかけて編制したのが、「春日隊」と言われています。

ですから、一小のみなさんに、まず初めに参加を呼びかけたのは、私たち地元の人々によって組織されたのが「春日隊」だったからです。

昨日のパレードのスタートは、一小の校庭でした。全国から集まった、新選組を愛する人たちが、近藤勇・土方歳三・一番隊隊長沖田総司以下十番隊までに扮して勢揃いしました。

一小の子供たちの春日隊の衣装の着付けは、日野市社会福祉協議会のみなさまにご協力いただきました。

だんだら浅葱（あさぎ）の隊服の隊士に囲まれて、「春日隊」の子供たちは、ずいぶん緊張したようです。「えいえいおう」の勝鬨（かちどき）の声も、ずいぶん小さかったようです。

今皆さんが整列しているこの場に、新選組隊士が勢揃いしてかちどき声を上げる姿は、学校の歴史を感じさせると共に、京都での活躍が故郷多摩にも伝わり、地域に愛された「新選組」の歴史も感じることができました。

いよいよパレードのスタート。日野市観光協会のホームページには「いよいよ、第18回新選組まつり新選組隊士パレードです。まずは、市内保育園合同のパレード。小さな隊士たちが、負けじと旗を掲げ、勝鬨（かちどき）をあげながら笑顔の行進。（中略）そして、待ちかねた新選組隊士パレード本隊の登場です。先頭は春日隊、春日隊は今年初陣、日野第一小学校の有志が、凜々（りり）しく進みます。続くは日野市長扮する日野宿名主、佐藤彦五郎です。（略）観客と触れ合いながら、笑顔をもらいながら進む隊士たち、それはふるさとに錦を飾ることを願いながら、散った、新選組隊士たちへの想いをかなえたパレードになりました」とあります。

パレードした日野宿甲州街道は、新選組そして鎮撫隊が進んだその道でもあります。残念ながら、時代の流れには勝てずに、勝ってこの地に戻ることはありませんでした。

時代の流れと、その先をしっかりと考えることの大切さは、その後の日野の発展に大きくつながり、今も受け継がれています。

「自由民権運動」の先頭を走り、「日野自動車」「エプソン」などの大きな会社が日野にくるよう働きかけた人々。そして、今「ICT」や「特別支援教育」「おいしい給食」など日本の先頭を走り続けています。

みなさんの地元にはまだまだたくさん宝があります。「新選組」だけでなく「日野用水」「大昌寺」「自然」「煉瓦（れんが）」などについて、興味をもち、疑問に思ったことなどを調べてみてください。それを多くの人に発信してください。そして新たな課題について、調べてみましょう。日野の宝をみなさんの学ぶ力につなげてください。

参考（日野市観光協会 HP）

（日野第一小学校 石田恒久）

Ⅲ 研究のまとめ ～成果と課題～

研究主題「郷土意識を育む指導の在り方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～」のもと、1年間、研究と実践に努めてきた。大きな成果は、郷土資料の教材化を通して、指導者である教師が、郷土「日野」の特色やよさを知り、この教材で授業がしたい、子供たちに郷土の特色やよさを伝えたいと意識を高めたことである。教師の意識の高まりと授業実践意欲が、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成につながると考える。

今年度の成果は大きく二点あると考える。その一点は、農のまち日野を象徴する「七ツ塚ファーマーズセンター」の存在を知ることと、農と住との共生によるまちづくりの大切さである。日野用水はかつての日野3000石を支え、その基盤である東光寺地域は現在においても野菜や梨、ブルーベリーの栽培で日野農業を支える地域であり、この地域の存在を知らせることでこれからも農業の振興が大切であることに気付かせてくれた。このため、この地域は今だに自然豊かなところである。日野用水が現在も重要な役割をしている。

もう一点は、日野宿の歴史的な背景となった四谷・東光寺地区の存在である。室町時代から続く仏像の存在や日奉氏と日野宮神社の関係、この日奉氏は国司として武蔵国にやってきたものが土着したものであり、平山一族はこの日奉氏であり、中世まで力を振るっていたという。この四谷・東光寺地区の存在があってはじめて、日野宿は経済的にも豊かな地域となったと言える。

さて、こうした中での課題は、これまで蓄積してきた郷土教育の指導法や学習教材を如何に若手教員伝えていくかという点である。このことで大切なことは、郷土への興味・関心を若手教員にもたせることである。

1 成果

(1) 郷土教材の開発と指導者の育成

- ① 新しい指導資料を発掘し、継続した教材の作成に努めることができた。
 - ・四谷・東光寺地区、旭が丘、三沢、万願寺地区の教材化を図った。
- ② 歌や踊りを教材として利用し、幼児や低学年児童の学習意欲を高めることができた。
- ③ 幼稚園で引き続き紙芝居教材「日野の昔話」を作成することができた。
 - ・四谷に伝わる昔話「うなぎにすくわれたはなし」「若宮八幡一番鶏による東光寺村と栗野須村の境界線争い」
- ④ 四谷自治会や日野宿の方等の協力により授業を盛り上げることができた。
- ⑤ 郷土資料館の方による勝五郎生誕200年記念展覧会の内容紹介。

(2) 郷土資料館・図書館等関係機関と連携した学習指導法の研究

- ① 問題把握・追究・まとめの学習過程で、効果的に郷土資料を活用し、問題解決型の授業を推進することができた。
- ② 新選組のふるさと歴史館や郷土資料館の展示内容を適宜紹介してもらい、相互に連携した教育活動を推進することが可能となった。
 - ・社会科見学での十分な打ち合わせと体験学習の導入を図った。
 - ・郷土資料館による実物の郷土教材を活用した出前授業の充実を図った。

- ・図書館保有資料（図書、広報、写真）を活用した授業を実践することができた。
- ③ 関係機関、地域人材と連携した授業、各委員の協力によりフィールドワークを実施することができた。
- ④ 幼稚園による関係機関・地域人材と連携した園外保育の工夫ができた。

（３）郷土教材の電子データ化

- ① 「郷土日野」指導事例集と指導事例集の写真図版を日野市立教育センターのホームページに掲載することができた。
- ② 郷土教育に電子データ化された教材やICT機器を活用した授業実践を行うことができた。
- ③ 過去のプレゼンテーションデータを全員が共有し、活用することができた。

（４）その他

- ① 本市小学校校長会の理解と協力のもと「郷土教育は校長のリーダーシップから」を合言葉に児童朝会で郷土教育に関する「校長講話」を実施することができた。
- ② 郷土教育推進研究委員会委員が、1年間の継続研究を通して、日野のよさ・特色に気付き、郷土の教材化・授業実践の楽しさを体験した。また、子供、保護者、地域と共に授業を創造し、授業力を向上させた。
- ③ 本委員会に学校現場から、フィールドワーク、授業、若手教員指導の要請が増え、できる限り学校現場の期待に応えている。

2 課題

- （１）研究推進・授業実践の成果をさらに継承・発展・定着させることが重要である。これまで本委員会で培ってきた郷土教育の内容や指導法を若手教員に定着させていくことが大切である。
- （２）郷土教育推進リーダーの養成と若手教員の育成が必修である。教育現場では、郷土教育日野への理解が深まり実践意欲が高まりつつあるが、教員・学校間の郷土教育への関心度の差が大きい。「日野をふるさと思い、日野に誇りと愛着をもった教員」「ひのっ子教育を背負って立つ気概をもった教員」の育成が必要である。
- （３）日野市教育委員会と連携し、日野の特色やよさが理解できるフィールドワーク・教材化・授業づくりを工夫した研修会を充実させることが必要である。
- （４）博物館、図書館、公民館等生涯学習関係との連携・協力関係を深め、学校との人材の交流、協働授業等の協働関係をさらに充実させることが必要である。
- （５）本委員会所属委員間で相互に授業を見合い、児童・生徒の実態、郷土教材の有効性を検証し、よりよい教材化と授業実践を図る。

（中島 和夫 廣木 智之）

郷土教育推進研究協力者（敬称略）

- ・小 峯 勉 四谷自治会氏子会 講師
- ・北 村 澄 江 郷土資料館 講師
- ・加 藤 善 巳 四谷自治会 情報提供
- ・戸 塚 一 三 日野市産業振興課 講師、資料・情報提供
- ・澤 井 誠 日野市産業振興課 講師、資料・情報提供
- ・杉 浦 靖 俊 大昌寺住職 講師
- ・松 本 保 とんがらし地蔵管理者 講師
- ・千 葉 正 教育センター ICT活用
- ・尾 形 斉 教育センター ホームページ情報発信

郷土教育推進研究協力団体

- ・日野市立東光寺小学校 ・日野市四谷自治会 ・日野市産業振興課
- ・成就院 ・日野市公立小学校校長会 ・日野市立七ツ塚ファーマーズセンター
- ・どんぐりクラブ ・日野の自然を守る会

平成27年度 郷土教育推進研究委員会委員

No.	役 職	所 属	職	氏 名
1	委 員 長	仲田小学校	校 長	池 田 泰 章
2	副 委 員 長	日野第三小学校	副 校 長	井 出 寿 雄
3	委 員	元渋谷区立常盤松小学校	元校長・学識経験者	會 田 満
4	委 員	元日野市立百草台小学校	元校長・学識経験者	吉 野 美智子
5	委 員	元日野市立日野第一小学校	元校長・学識経験者	小 杉 博 司
6	委 員	第二幼稚園	教 諭	平 石 香奈子
7	委 員	第三幼稚園	教 諭	高 橋 吉 美
8	委 員	豊田小学校	教 諭	小 林 瑞 季
9	委 員	日野第四小学校	教 諭	青 木 哲 男
10	委 員	日野第六小学校	教 諭	鈴 木 信 之
11	委 員	日野第八小学校	教 諭	菅 原 彰 訓
12	委 員	旭が丘小学校	教 諭	岩 井 美 保
13	委 員	新選組のふるさと歴史館	学 芸 員	松 下 尚
14	委 員	郷土資料館	学 芸 員	秦 哲 子
15	委 員	市政図書室	司 書	高 橋 寿 恵
16	事 務 局	市教委学校課	指 導 主 事	岡 元 大 輔
17	事 務 局	日野市立教育センター	所 員	中 島 和 夫
18	事 務 局	日野市立教育センター	所 員	廣 木 智 之

郷土教育推進研究報告書

平成27年度「郷土日野」指導事例 第11集

発行日 平成28年3月31日
発行 日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会
〒191-0042 日野市程久保550
TEL 042-592-0505
FAX 042-592-1148
印刷 システム印刷株式会社